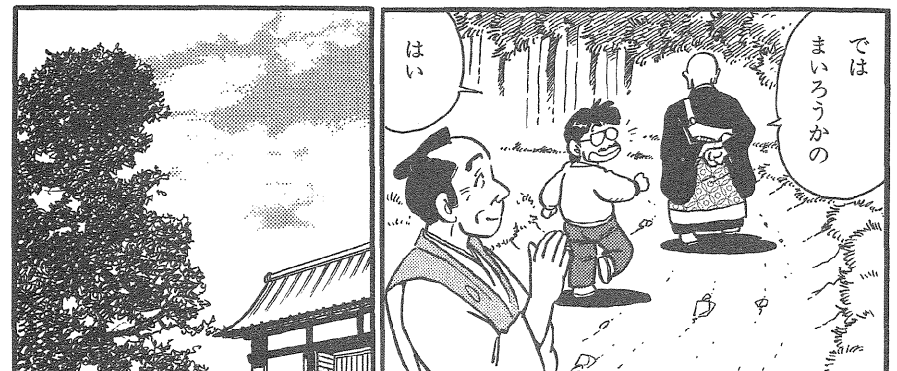
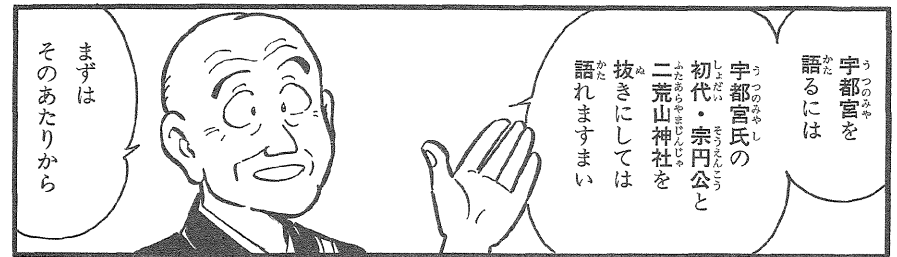
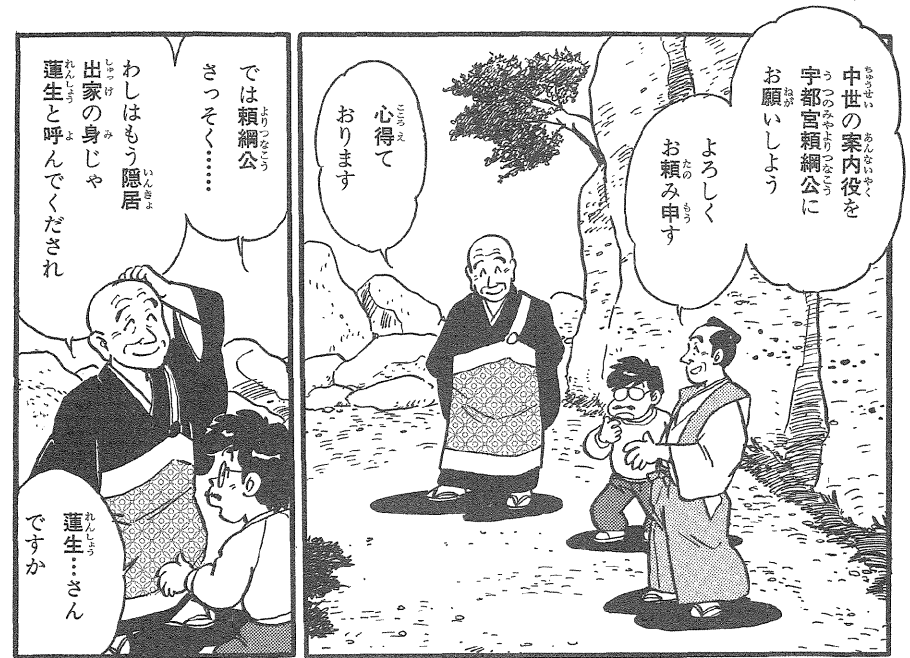
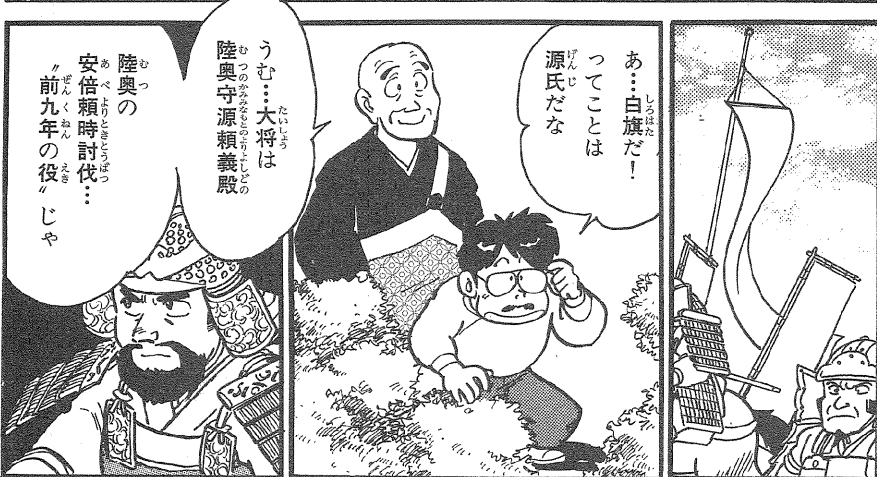
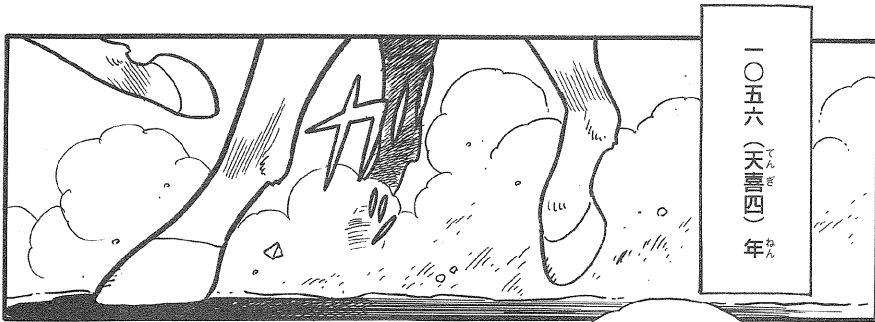


だい しょう ちゅう せい
第二章・中 世



ちゅう せい の う つ の みや じょう そう ぞう ず
中世の宇都宮城想像図





宗円は氏家郷勝山の
釜が淵をのぞむ小高い丘の
いただきに護摩壇を設け

安倍頼時調伏の
祈ぐつをはじめた



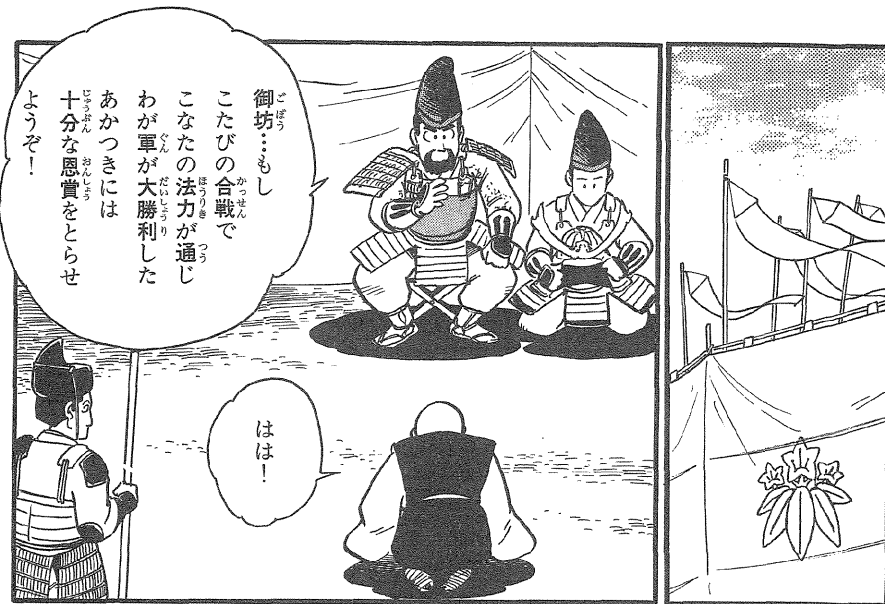
南無八幡
……

なにとぞ
頼義公を
勝たせたまえ



※彼自身もまた
石山寺の座主で
あった……

宗円の父親は
右近衛中将
藤原兼房という偉い人で
曾祖父の藤原道兼は
関白にまでなった家柄である



御坊…もし
こたびの合戦で
こなたの法力が通じ
わが軍が大勝利した
あかつきには
十分な恩賞をとらせ
ようぞ！

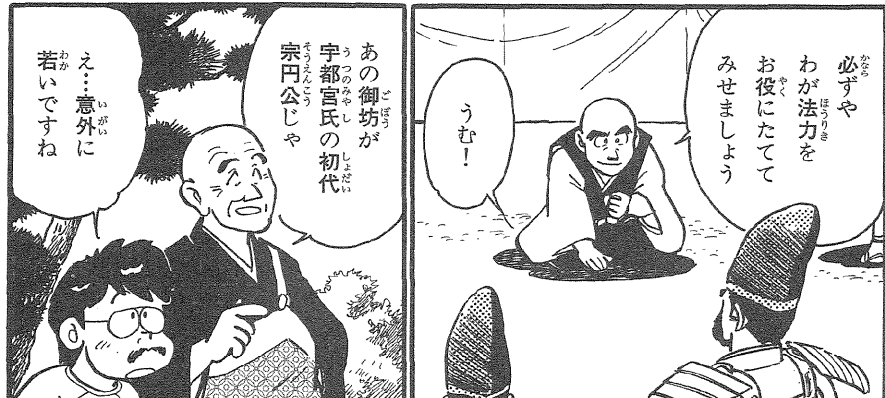
はは！



こなたの曾祖父
藤原道兼公には
わが源氏一門
ひとかたならぬ
ご恩を受けた身

頼義
こなたに悪い
ようにはせぬ

ありがとうございます
存じます！



必ずや
わが法力を
お役にたてて
みせましよう

うむ！

あの御坊が
宇都宮氏の初代
宗円公じゃ

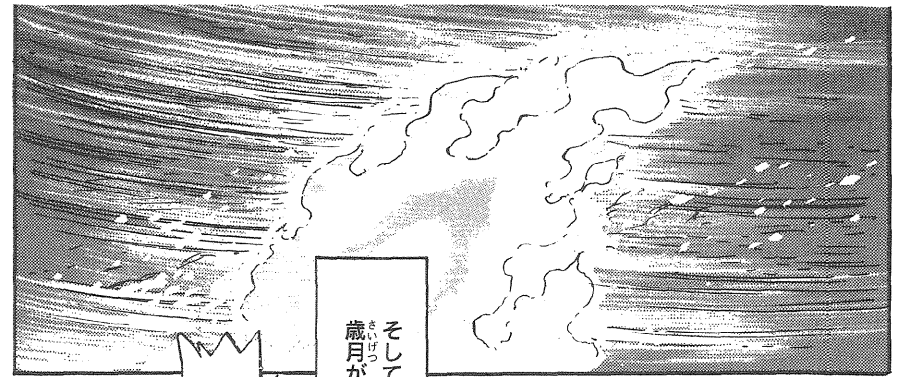
え…意外に
若いですね

49 ※調伏…法力により、敵・悪魔を降参させること ※関白…天皇を捕佐する最高の貴族の地位
※石山寺…近江（滋賀県）の琵琶湖の南岸にある寺 ※座主…大きな寺の一番偉い僧

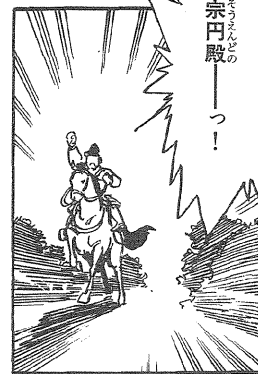


こうして
源氏の大勝利の恩賞として
宗円は宇都宮大明神
(二荒山神社)の
神領の支配をまかされ

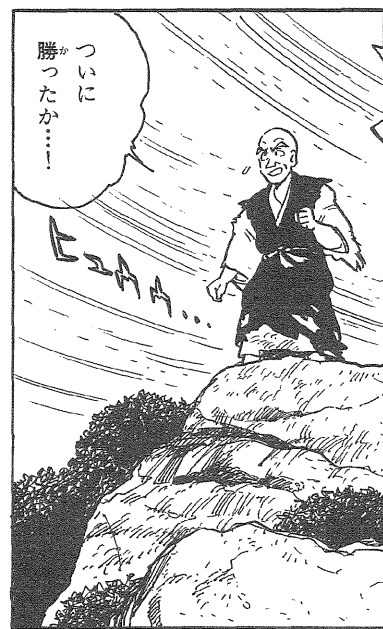
鬼怒川流域の下野国の
中央から東部
常陸国西南部の一部の
土地を手におさめた



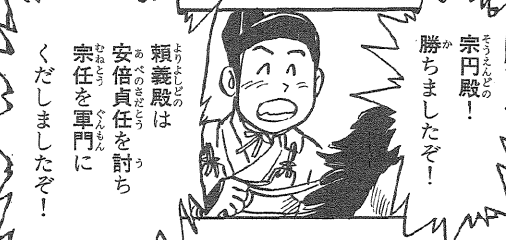
そして六年の
歳月が流れた



宗円殿——っ！



ついに
勝ったか……！

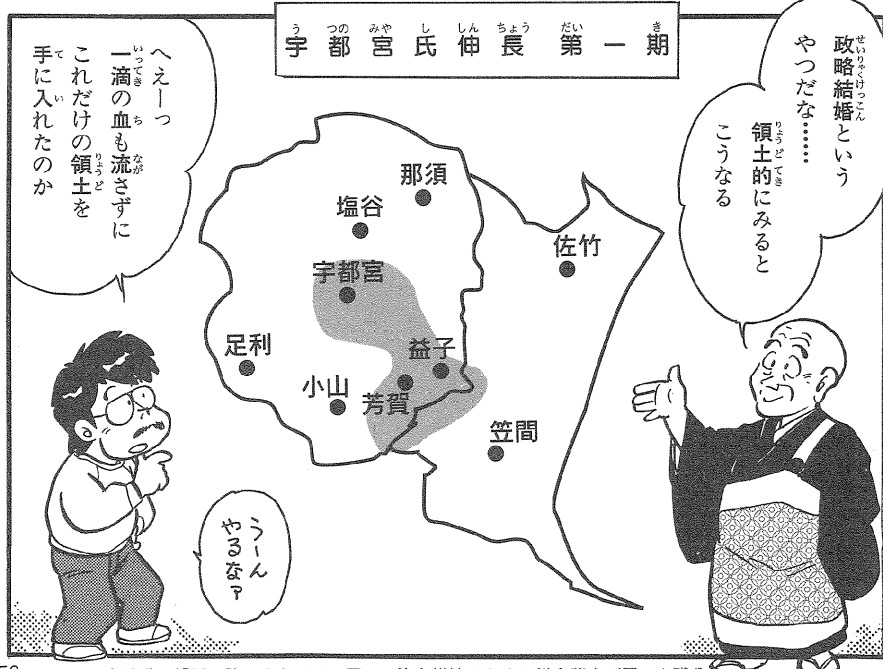
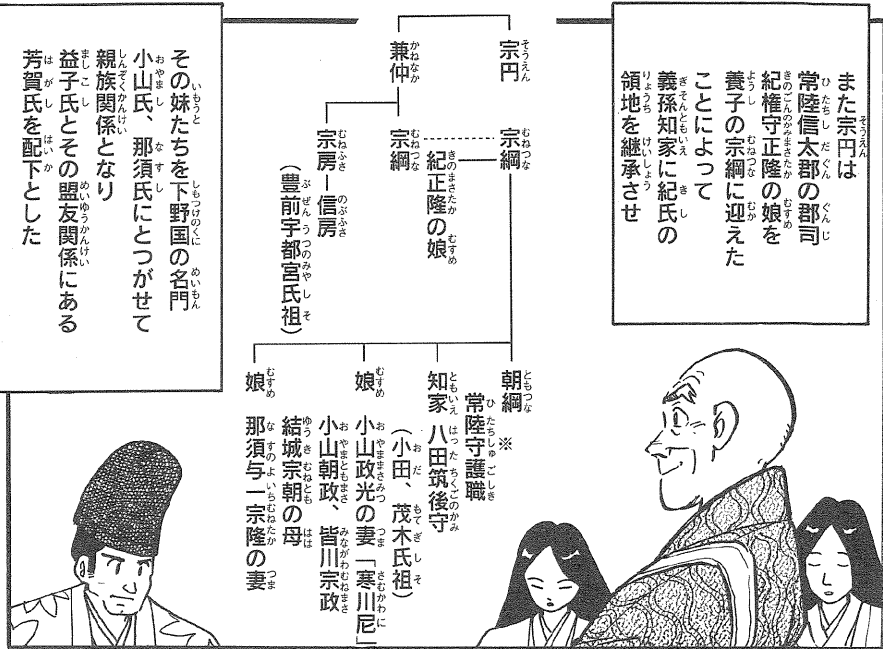


宗円殿！
勝ちましたぞ！

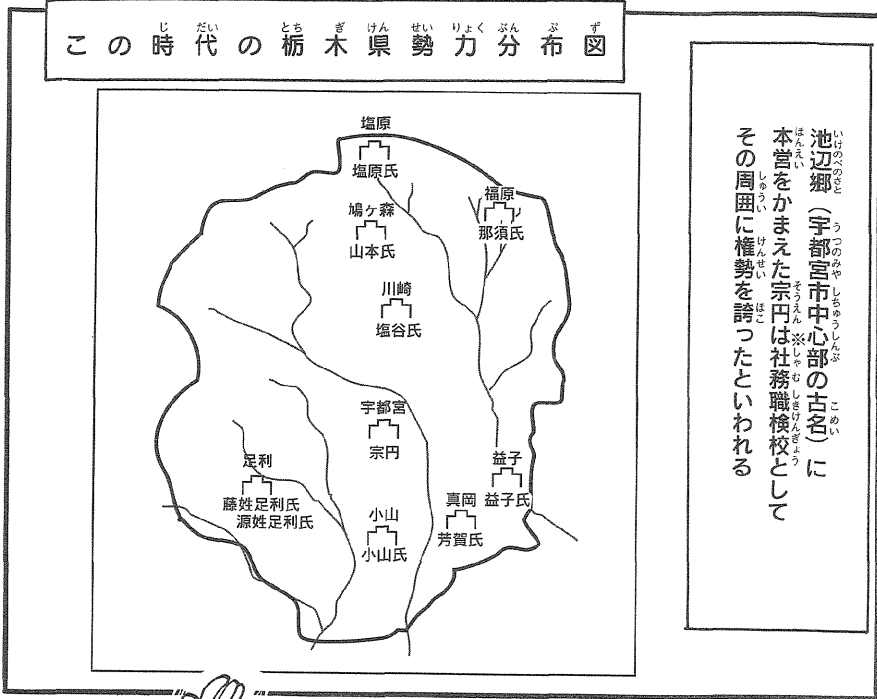
頼義殿は
安倍貞任を討ち
宗任を軍門に
くだしましたぞ！



そうか……

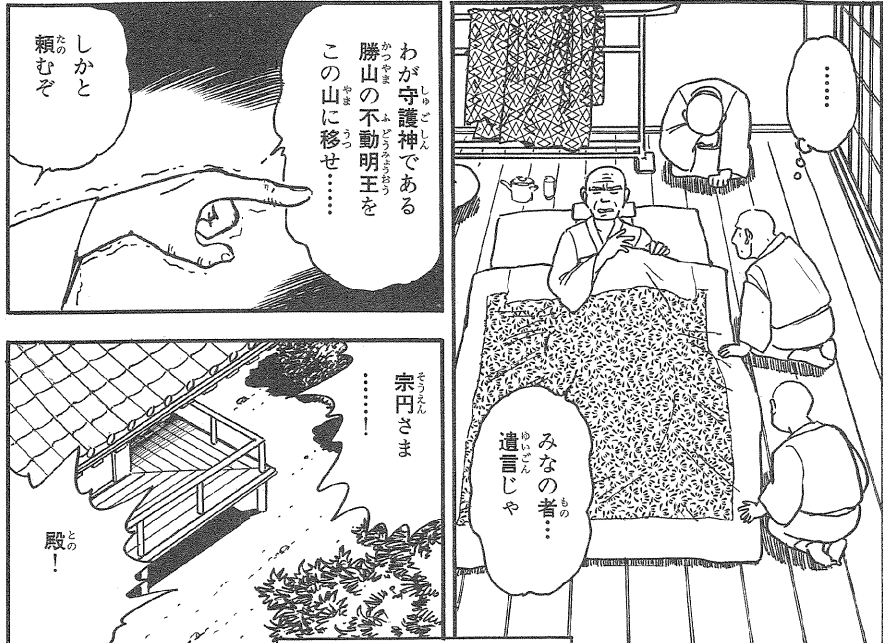
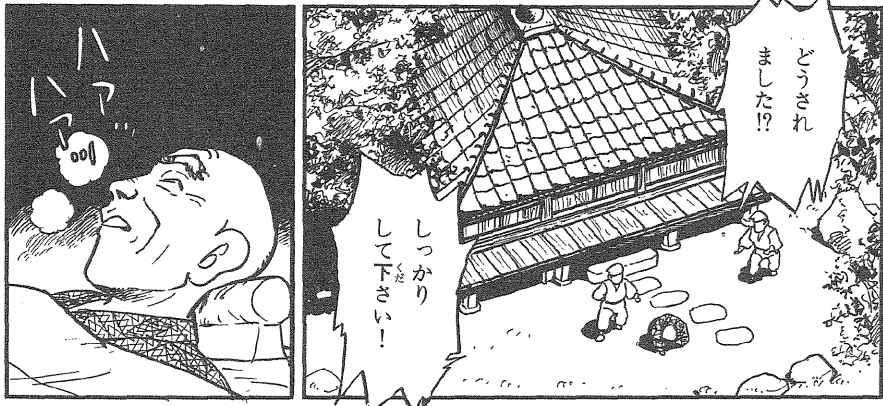
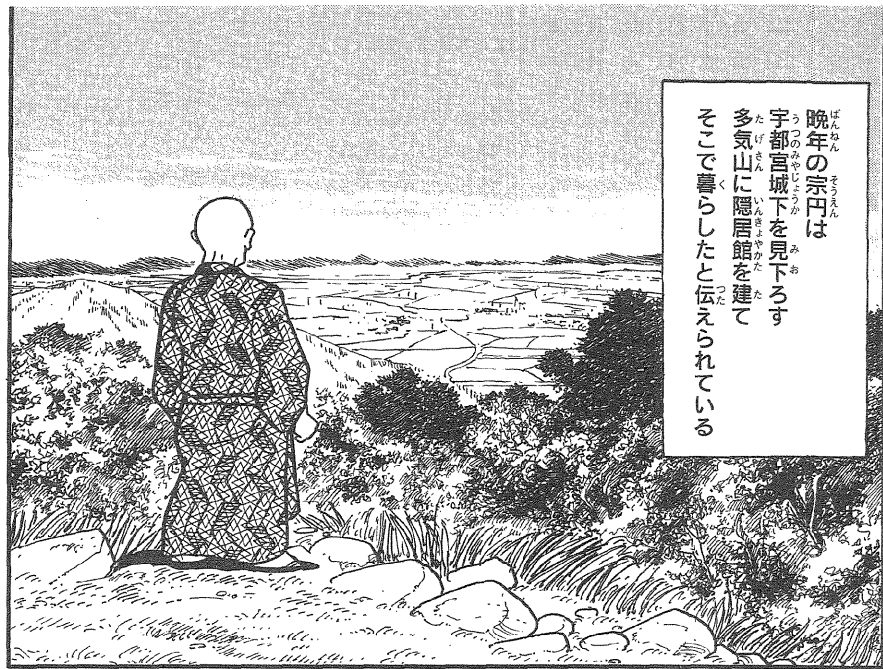


※守護職…朝廷の許しをうけて、国々の治安維持のために鎌倉幕府が置いた職分



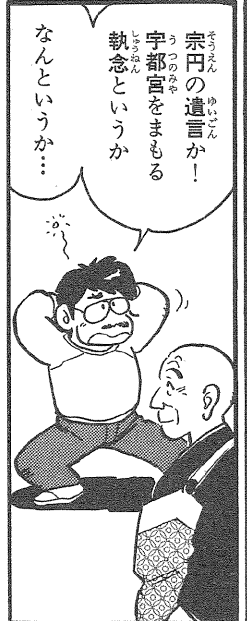
※社務職検校…神社の最高責任者(社務職)と附属寺院の責任者(検校)を兼ねたもの

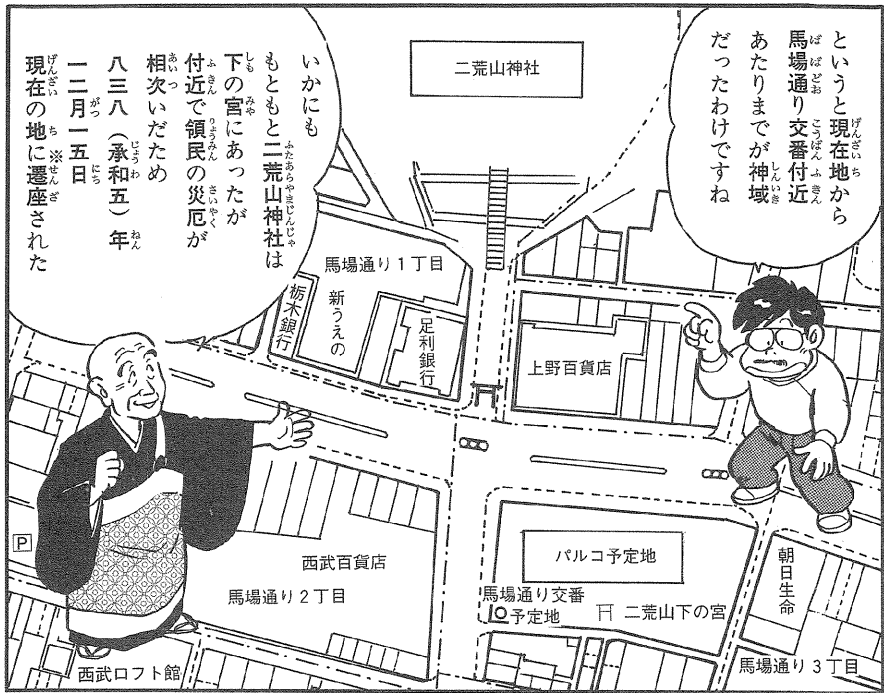
晩年の宗田は
宇都宮城下を見下ろす
多気山に隠居館を建て
そこで暮らしたと伝えられている



その後
勝山の不動明王は
宗田の遺言とおり
多気山持宝院に
移された

尊不動気多の現在





二荒山神社

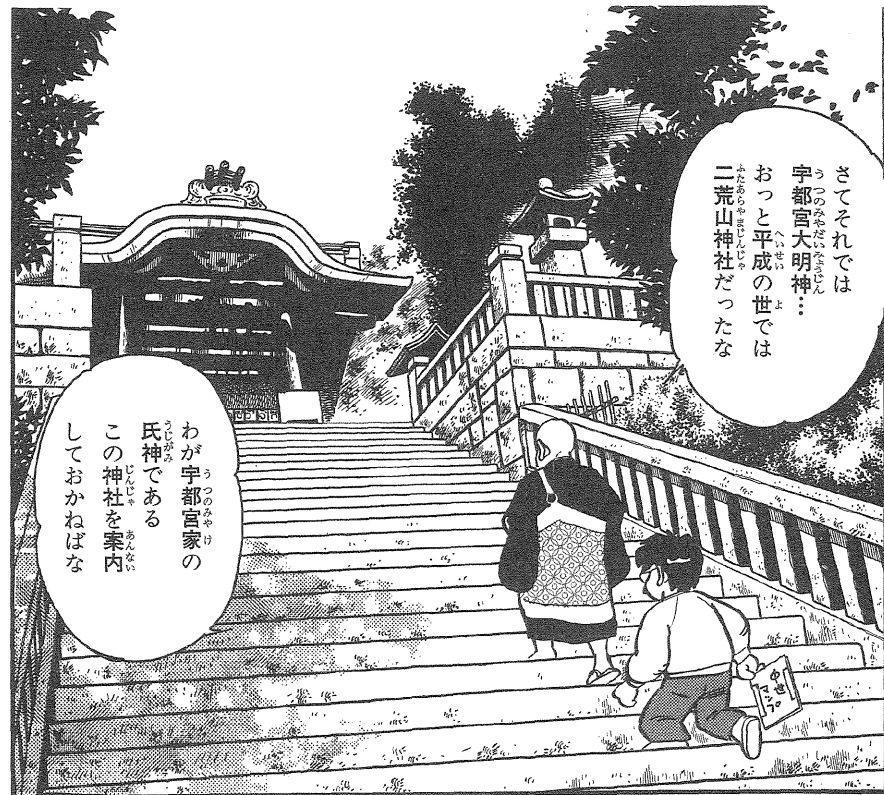
いかにも
もともと二荒山神社は
下の宮にあったが
付近で鎮民の災厄が
相次いだため
八三八（承和五）年
一二月一五日
現在の地に遷座された

というと現在地から
馬場通り交番付近
あたりまでが神域
だったわけですね



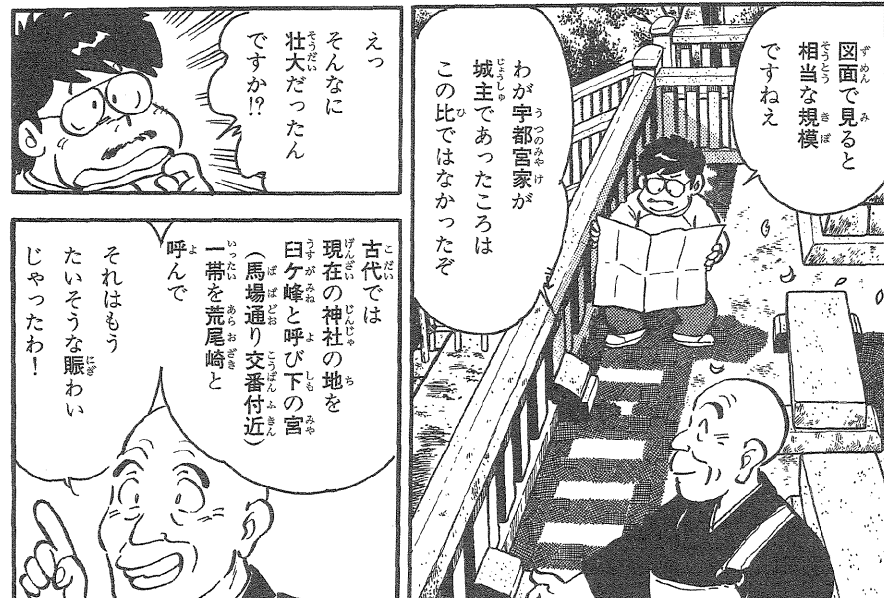
その遷座のなごりが
毎年一月と二月に
行われる
おたりやの
祭りなのじゃよ

なにせ下の宮と
二荒山神社は
ひとつの丘で
つながってあった
からの…



さてそれでは
宇都宮大明神…
おっと平成の世では
二荒山神社だったな

わが宇都宮家の
氏神である
この神社を案内
しておかねばな



図面で見ると
相当な規模
ですねえ

わが宇都宮家が
城主であったころは
この比ではなかったぞ

えっ
そんなに
壮大だったん
ですか!?

古代では
現在の神社の地を
白ヶ峰と呼び下の宮
（馬場通り交番付近）
一帯を荒尾崎と
呼んで
それはもう
たいそうな賑わい
じゃったわ!



鎌倉初代将軍
源 頼朝



“奥州安倍氏討伐”の
源 頼義、八幡太郎義家父子



“平 将門の乱”の
藤原秀郷



徳川初代将軍
徳川家康



“屋島の扇の的”
那須与一宗隆

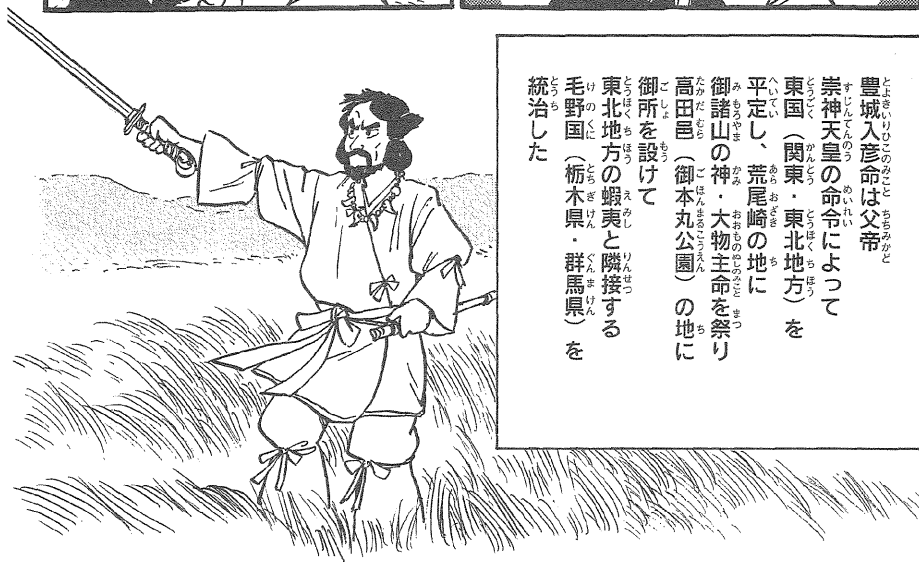
なるほど
そうそうたる
メンバーですね



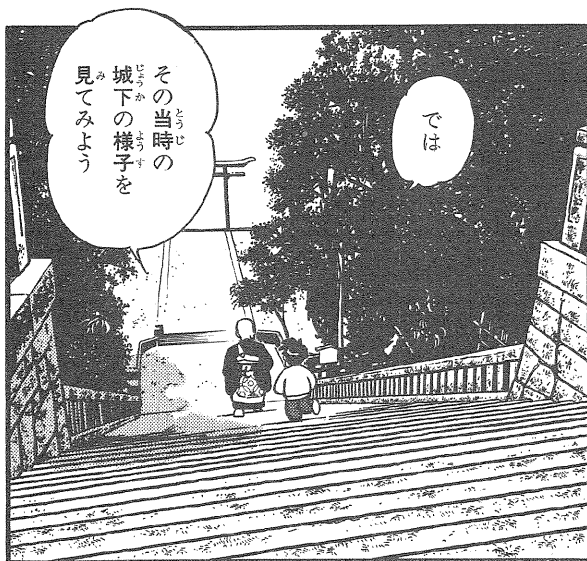
その通り！
ザッライ！
というと現在
二荒山神社に
祭られている…



ところで
二荒山神社の
由来は？
まじだ
まじだ
二荒山神社に
祭られたおかたは
第一〇代崇神天皇の皇子
豊城入彦命！



豊城入彦命は父帝
崇神天皇の命令によつて
東国（関東・東北地方）を
平定し、荒尾崎の地に
御諸山の神・大物主命を祭り
高田畠（御本丸公園）の地に
御所を設けて
東北地方の蝦夷と隣接する
毛野国（栃木県・群馬県）を
統治した



その当時の
城下の様子を
見てみよう

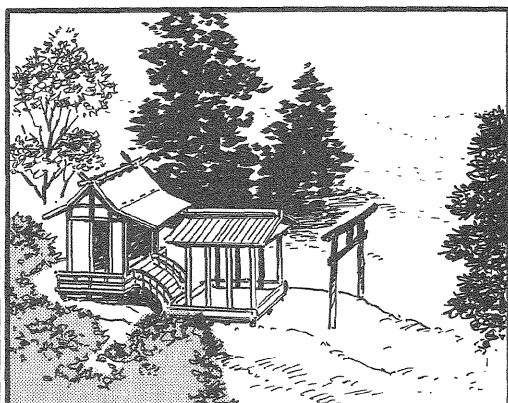
では



そして！
かくいう下野国
（栃木県）の武門の雄
わが宇都宮家じゃ
わかりました
わかりました



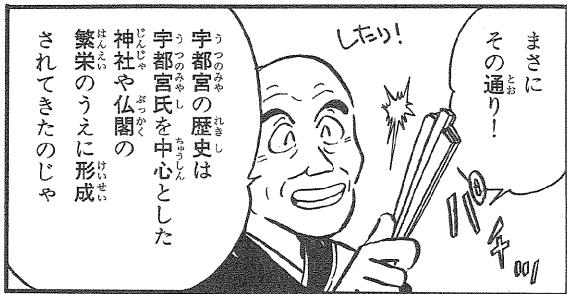
豊城入彦命は
武運長久の神
として
時代時代の
武将たちから
崇拝されてきた





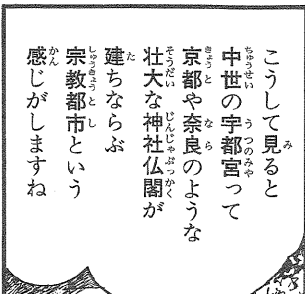
いまの県庁は
社家筆頭の
中里市正邸

県庁前通りの郵便局
N T T 栃木支社
県総合文化センター
栃木放送のビル一帯は
粉河寺の敷地の一部だった



ました!
まさに
その通り!

宇都宮の歴史は
宇都宮氏を中心とした
神社や仏閣の
繁栄のうえに形成
されてきたのじや



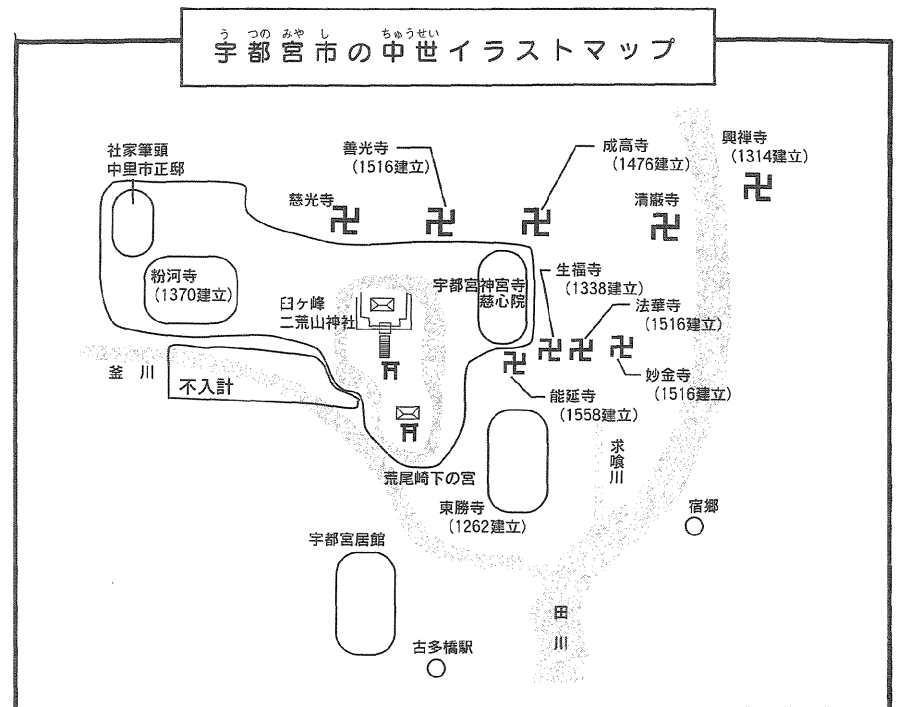
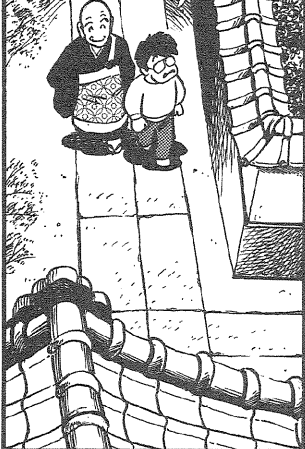
こうして見ると
中世の宇都宮って
京都や奈良のような
壮大な神社仏閣が
建ちならぶ
宗教都市という
感じがしますね



よからう



じゃあこのあとは
これだけ大規模な
文化を築いた
宇都宮氏の
実情にみるごとく
迫ってみますか

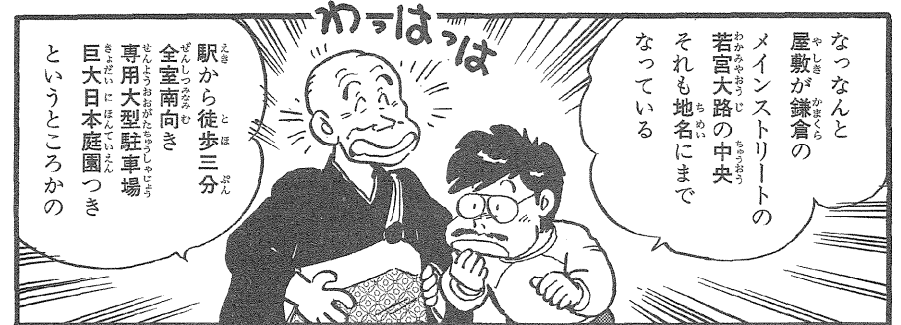
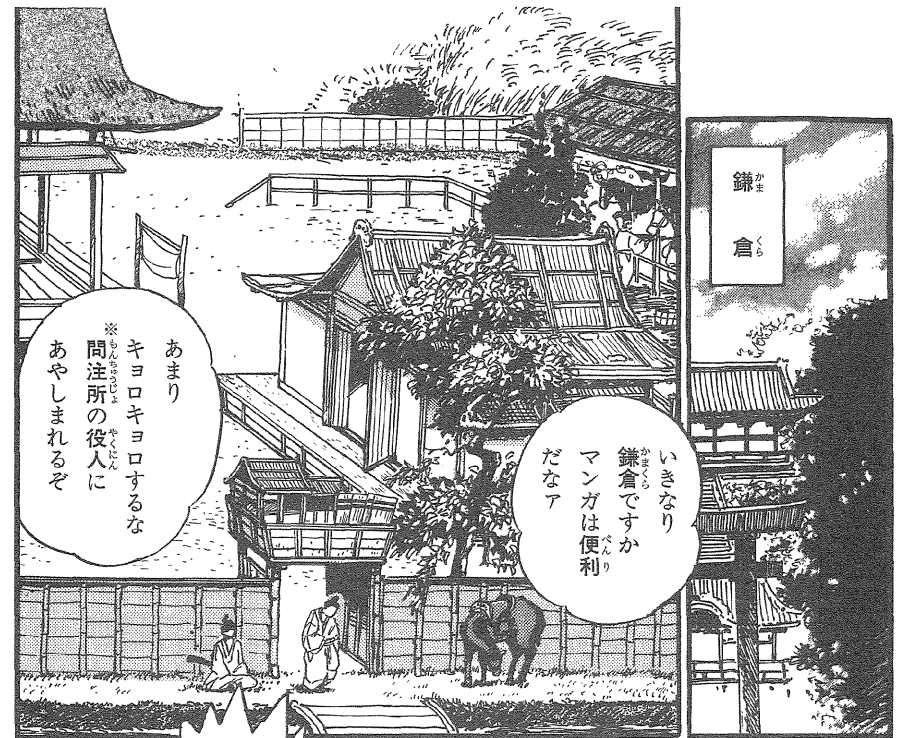
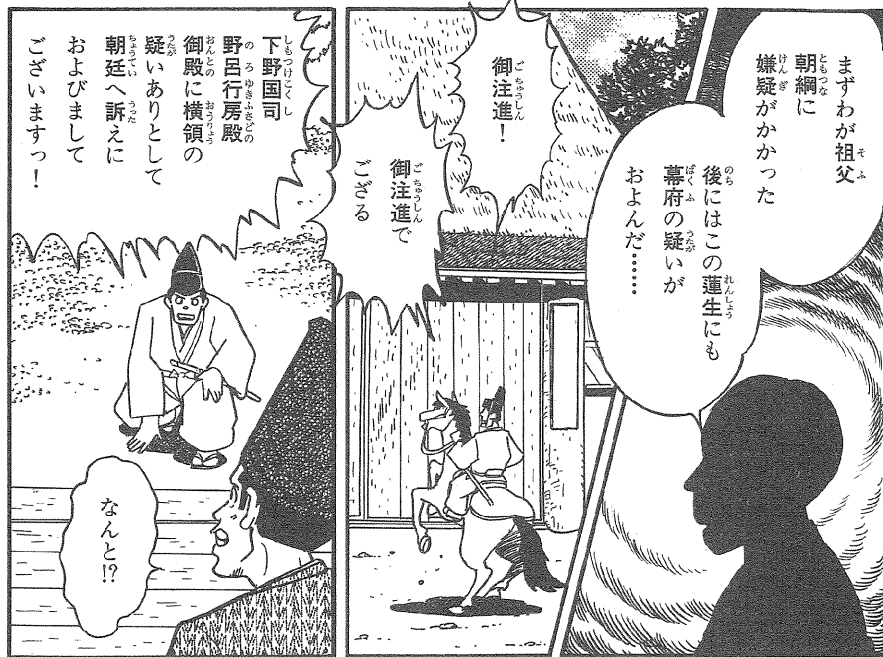
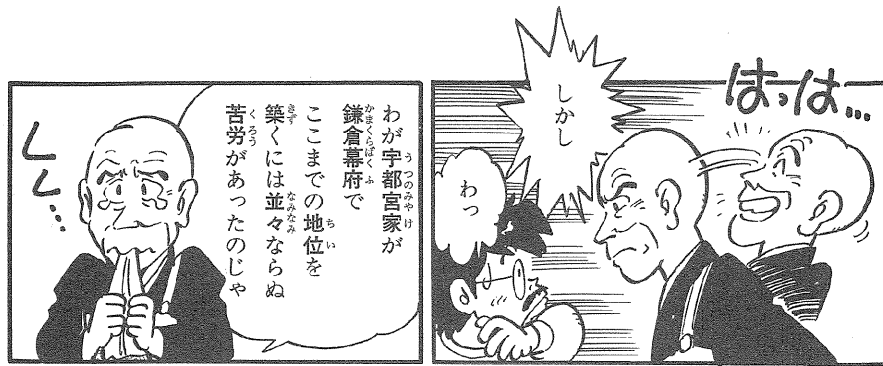


東勝寺が
宇都宮氏の氏寺
といわれ

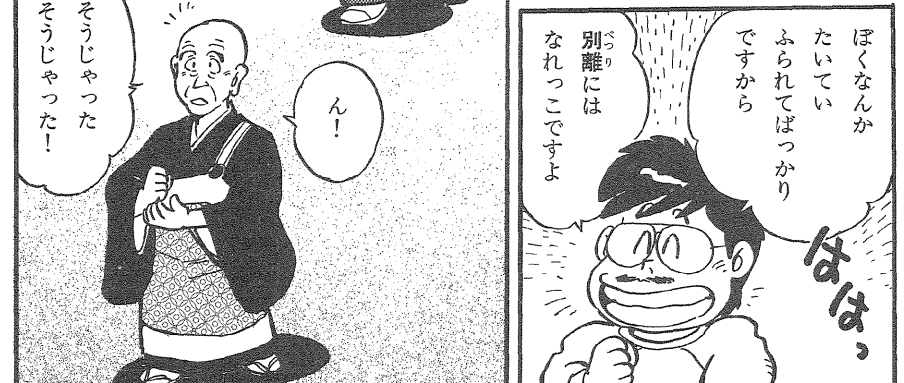
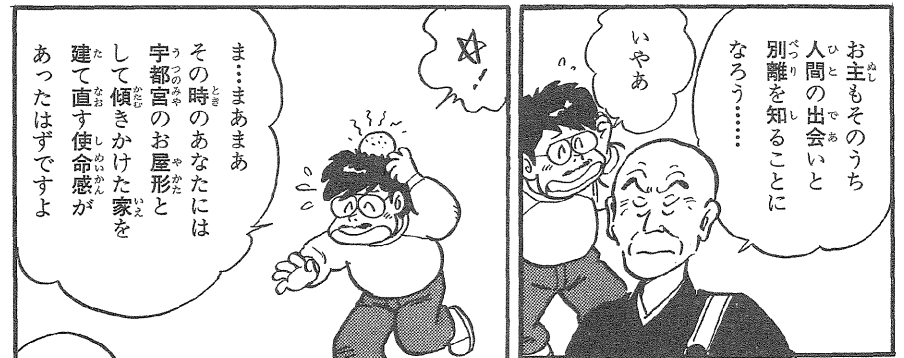
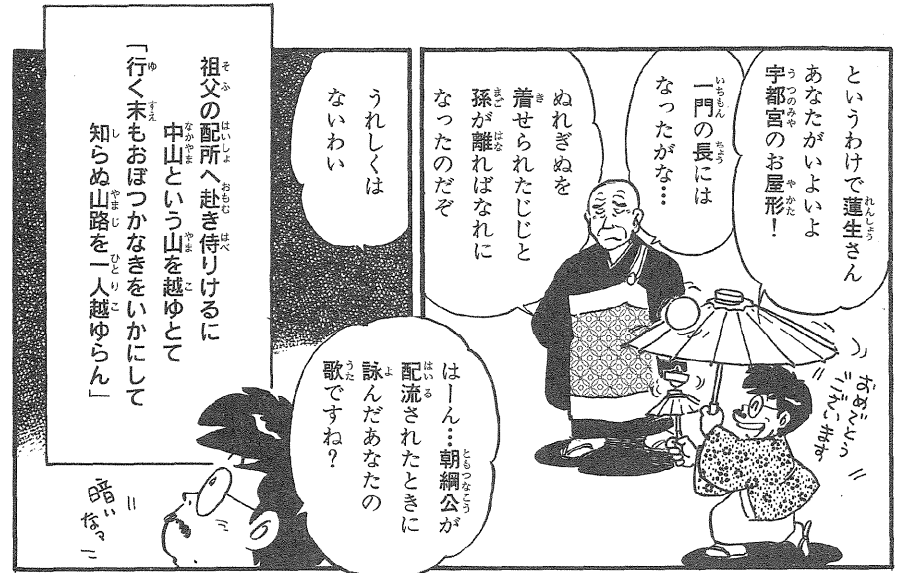
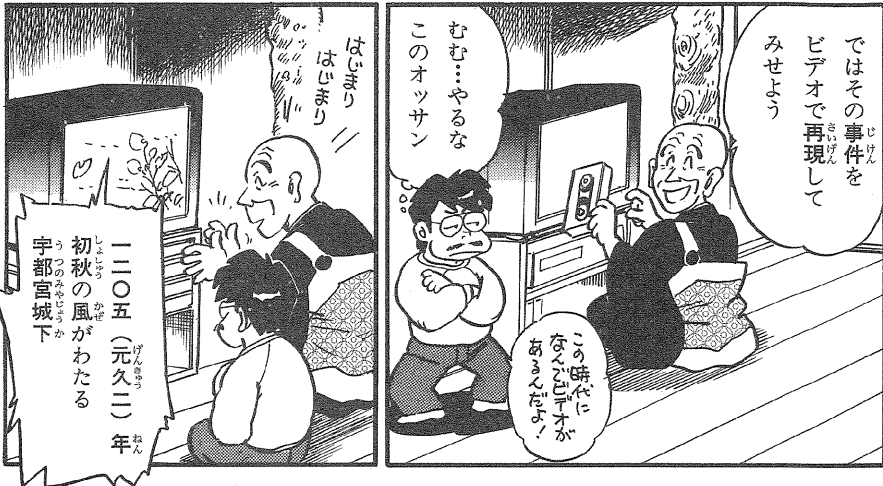


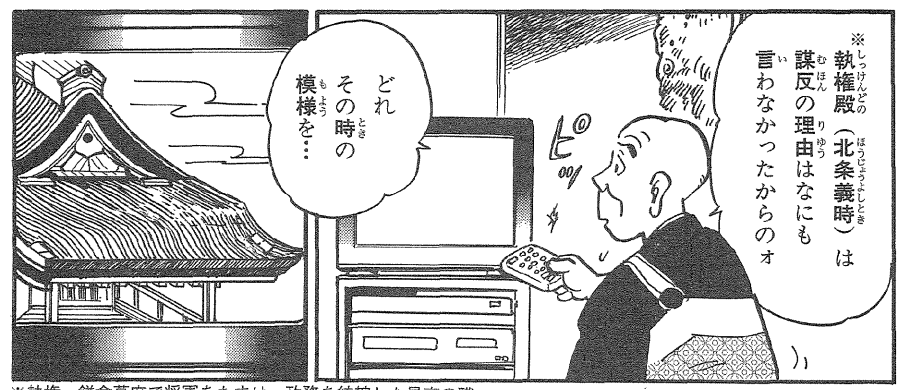
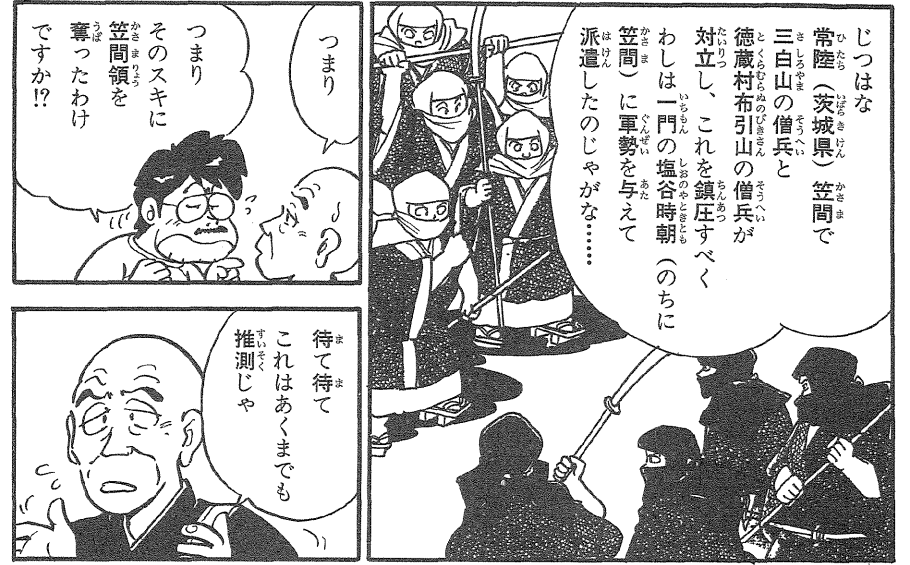
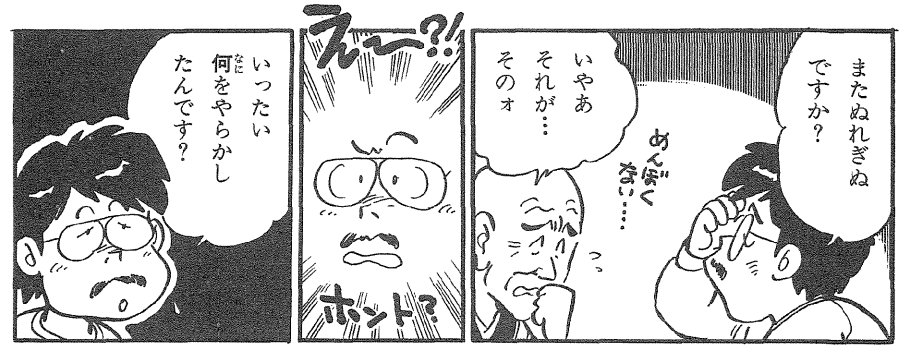
このうち慈心院が
二荒山の神宮寺

※神宮寺…神仏混こうのため神社に付属しておかれた寺院

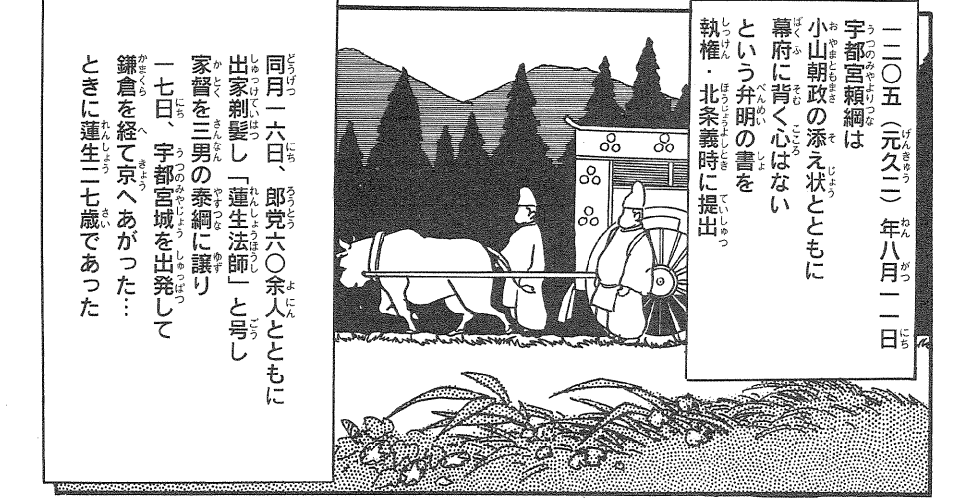


※問注所…鎌倉幕府の役所の一つで、警察の役目を担当
 ※辻子…中世の都市で、小路、十字路または人家の密集する一画をいう





※執権…鎌倉幕府で将軍をたすけ、政務を統轄した最高の職



同日一六日、郎克六〇余人とともに 出家剃髪し「蓮生法師」と号して 家督を三男の泰綱に譲り 一七日、宇都宮城を出発して 鎌倉を経て京へあがった... ときに蓮生二七歳であった

※法然房源空上人：鎌倉時代の初めに浄土宗を開いた。従来の貴族中心の仏教から、どんな人でも念仏すれば極楽往生できると説いた

蓮生さん一説によると
あなたは法然房源空上人さんの
お弟子さんだと
聞きました

うむ…わしは
京へあがったあと
摂津（大阪府）
勝尾山へのぼって
法然上人のお教えを
受け、上人なき後は
その第一の弟子
証空上人に師事したのじゃ

わしが後年
京都市右京区の
下津林楠町に建立した
『観念三昧院』は
その影響によるものなんだ

晴れて法然門下の
浄土宗信者となった蓮生は
ふたたび京にもどり
当時歌道の第一人者で
あつた藤原定家に
和歌を学んだ

こうしてのちに
宇都宮歌壇と
称される下野国の
歌道文化の第一歩が
しるされたわけですね

さよう
わしがいなかつたら
下野国の中世文化は
花ひらくことはなかつた
じやろうな

藤原定家という人は
そんなにビッグな
人物だったんですか？

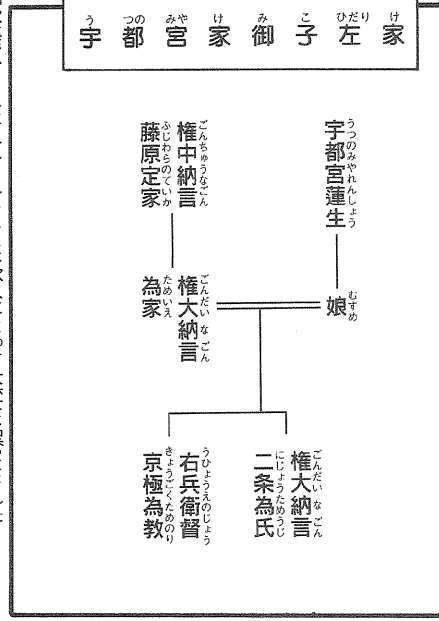
おお超ビッグじゃ！
『広辞苑』にも
ちゃあんと載っておる

名が…
が…
なにしろわしは
感激のあまり娘を
定家殿の子息
藤原為家殿に嫁がせた
くらいじゃからの

娘さんを定家さんの
息子さんに？

その二人の間に
生まれたのが
貴族の名門
二条家祖、権大納言
二条為氏殿じゃ

わが外孫たちは
いずれも後に



京都歌壇の
中心的な歌詠みに
なるのじゃよ
おかげで宇都宮一族も
一三人あわせた
※勅撰集入集歌は
なんと一二六首
…どうした？

それじゃあ
またビデオに
もどしますか

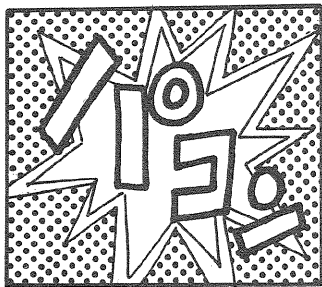
※勅撰集：天皇の命令によって作られる和歌集で、これに入れられることは歌人にとって大変な名誉とされた



実はわが別荘の襖も新しくすることにしたのでこれにも揮毫願えまいか？

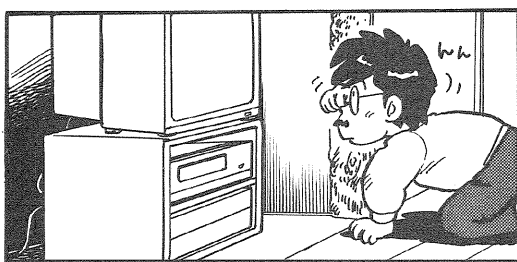
ほかならぬ蓮生殿の頼みひきうけましよう

そしてまた
一一三五(嘉禎元)年
五月二十七日
嵯峨中院

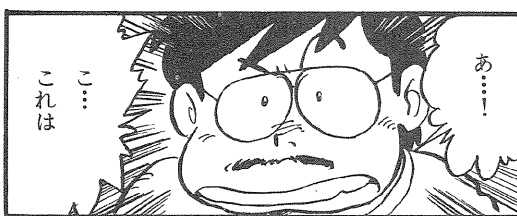


クワッ

このとき定家殿が贈ってくださった「百人秀歌」がのちの『小倉百人一首』の原型なのじゃ どうじゃおそれい…

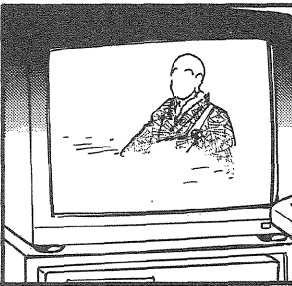


いって… あんまりムツカシイ…



そんなことより画面を見てみよう

これは…



定家殿

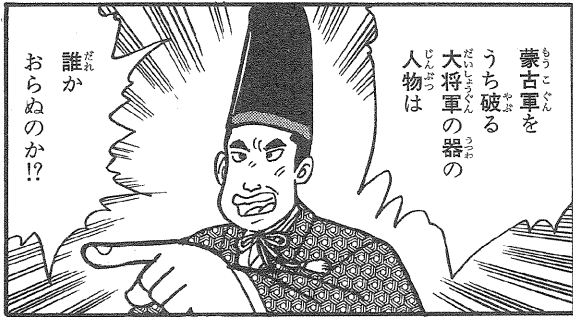
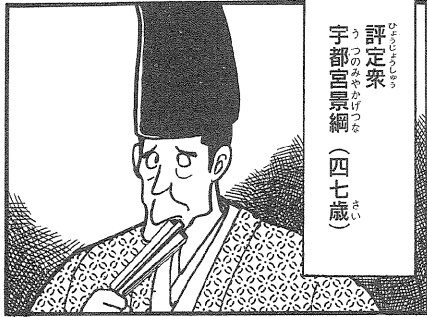
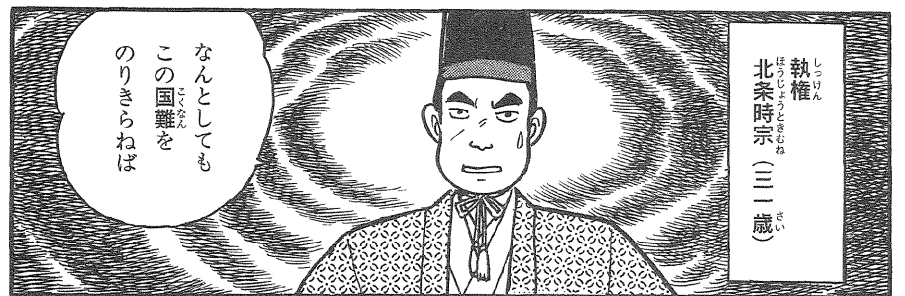
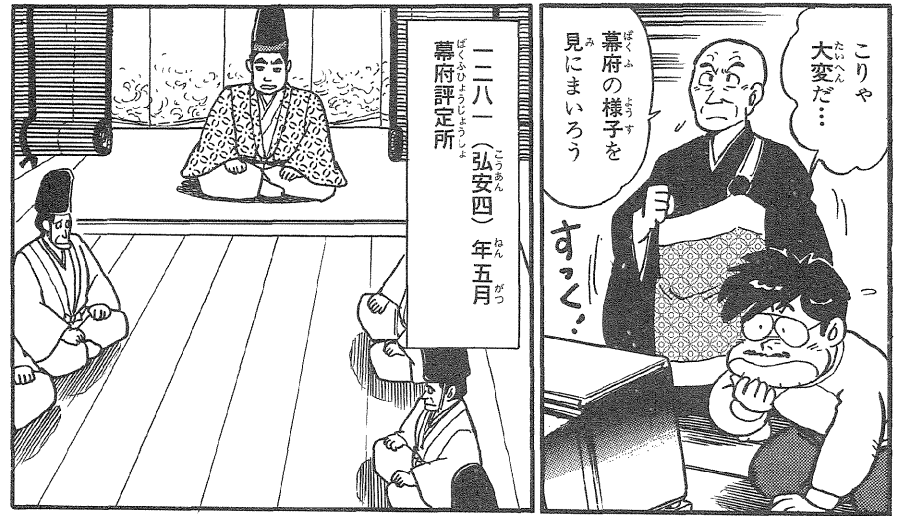
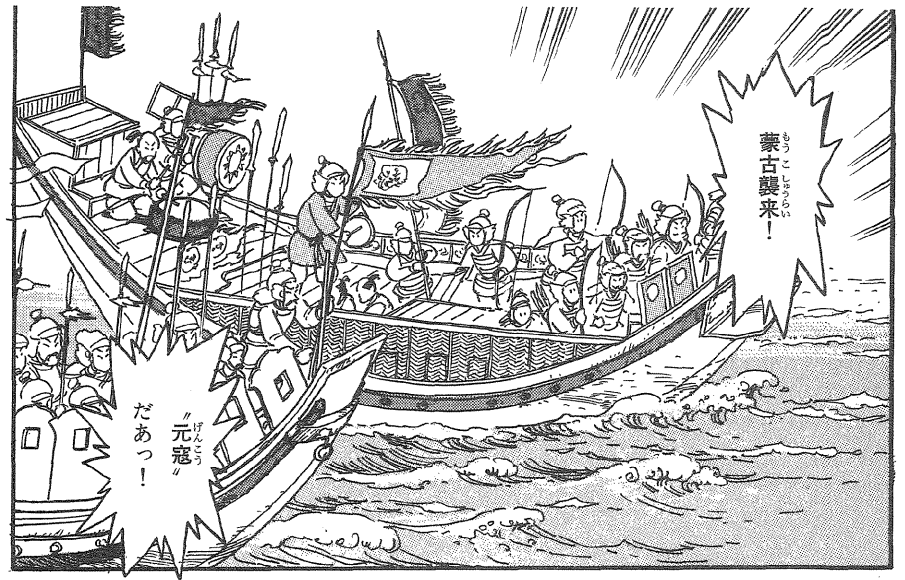
さて特筆すべきは…



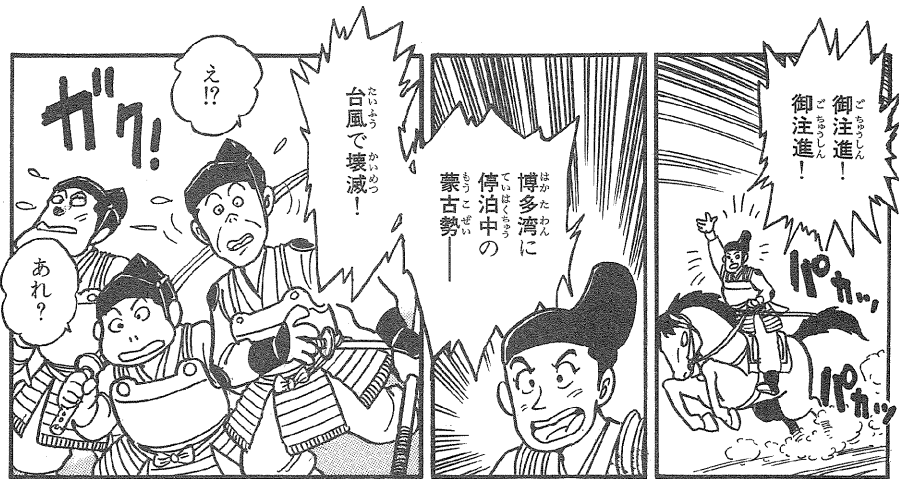
わが宇都宮城下の神宮寺である慈心院の襖を新調することになったのじゃが、そこに張る色紙を書いていただけまいか？

よろしゅうございます

わが歌の友藤原家隆殿とともに大和国(奈良県)の名所を詠んだ和歌を贈りましよう



※評定衆：鎌倉幕府において、執権とともに政務に参画した重職

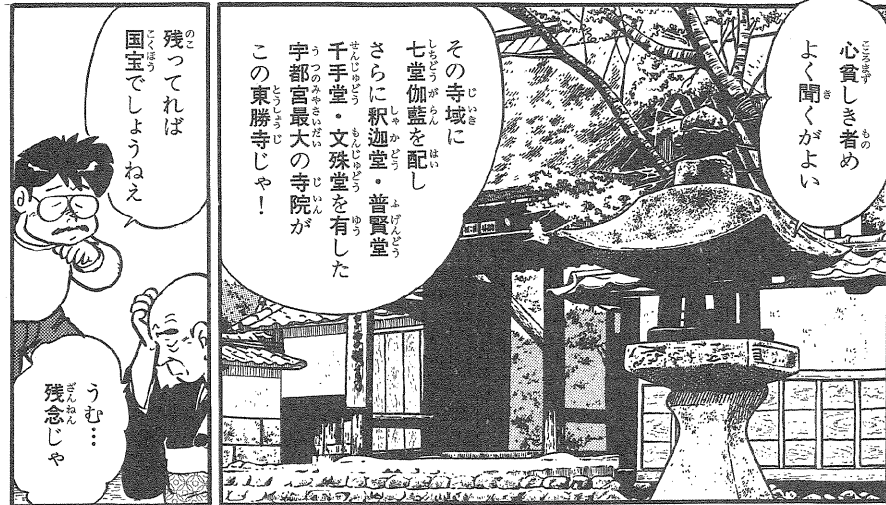


こうしてわが家は
いくつもの分家を
つくり...ますます
巨大になったのじや



こうして若冠一六歳の
幕府引付衆の
宇都宮貞綱は
蒙古軍征伐の大將軍として
山陽・山陰(中国地方)の
御家人六万あまりを
ひきつれて出陣!

安芸国(広島県)に
さしかかる...

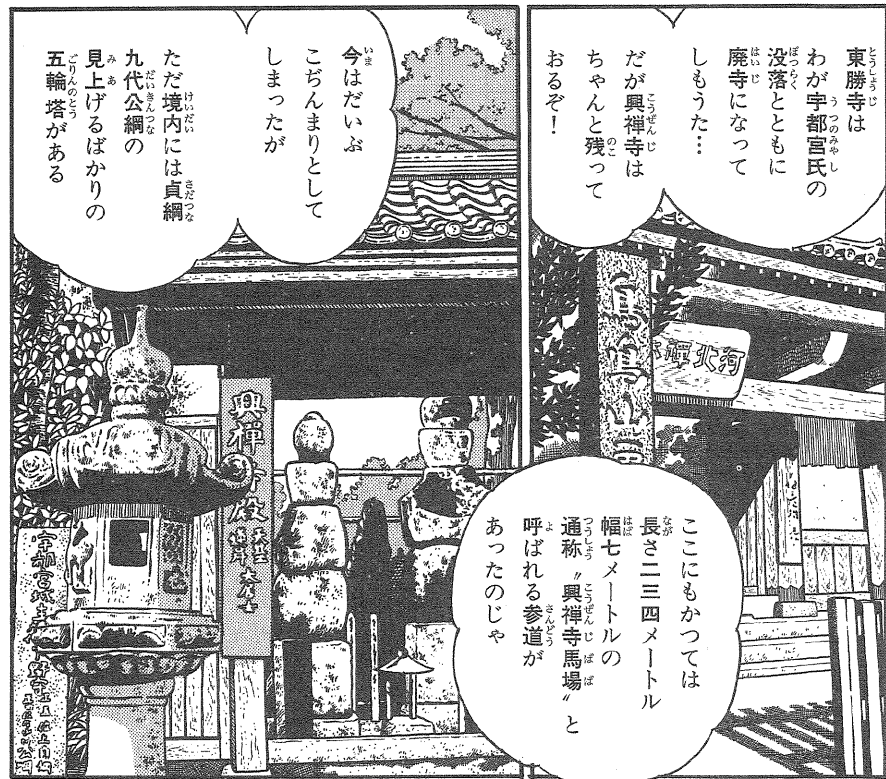


心賞しき者の
よく聞くがよい

その寺域に
七堂伽藍を配し
さらに釈迦堂・普賢堂
千手堂・文殊堂を有した
宇都宮最大の寺院が
この東勝寺じゃ！

残ってれば
国宝でしようねえ

うむ…
残念じゃ



東勝寺は
わが宇都宮氏の
没落とともに
廃寺になって
しもうた…
だが興禅寺は
ちゃんと残って
おるぞ！

今はだいぶ
こちんまりとして
しまったが

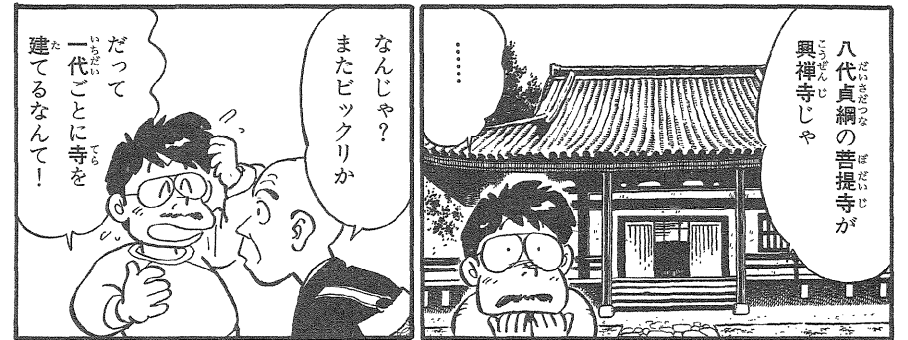
ただ境内には貞綱
九代公綱の
見上げるばかりの
五輪塔がある

ここにかつては
長さ三三メートル
幅七メートルの
通称「興禅寺馬場」と
呼ばれる参道が
あったのじゃ



おぬし
天下の御意見番
大久保彦左衛門は
知っておるか？
はあ…
あの者も
わが宇都宮家の
子孫じゃよ！

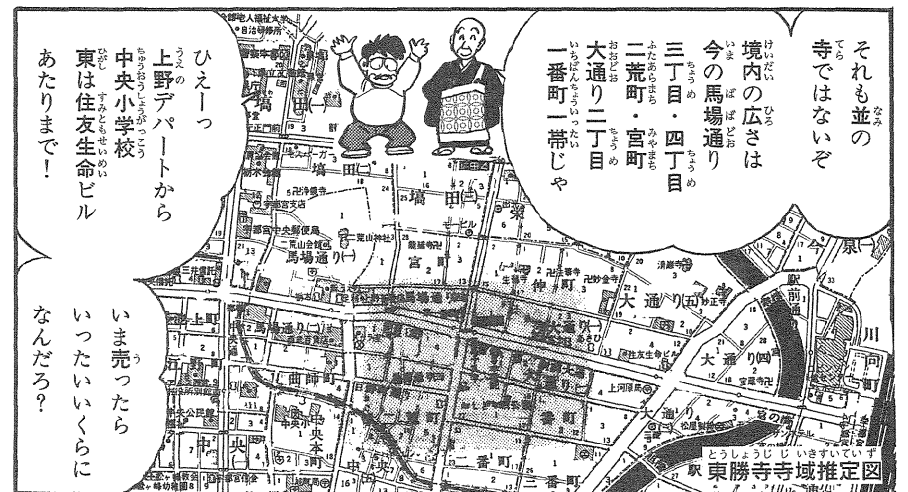
ところで
その繁栄を築いた
七代景綱の菩提寺が
東勝寺



八代貞綱の菩提寺が
興禅寺じゃ

なんじゃ？
またビックリか

だって
一代ごとに寺を
建ててるなんて！

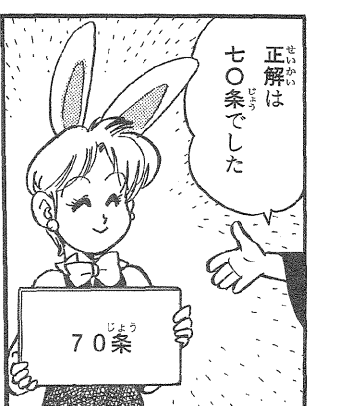
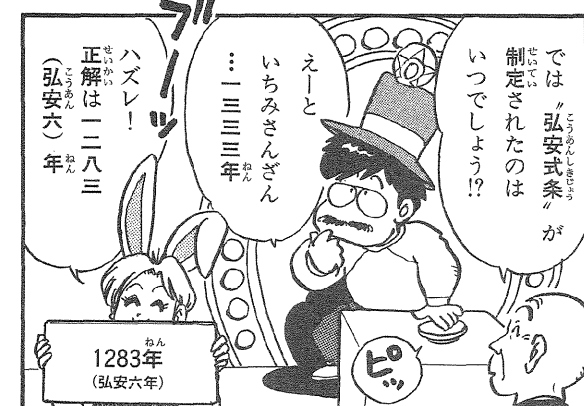
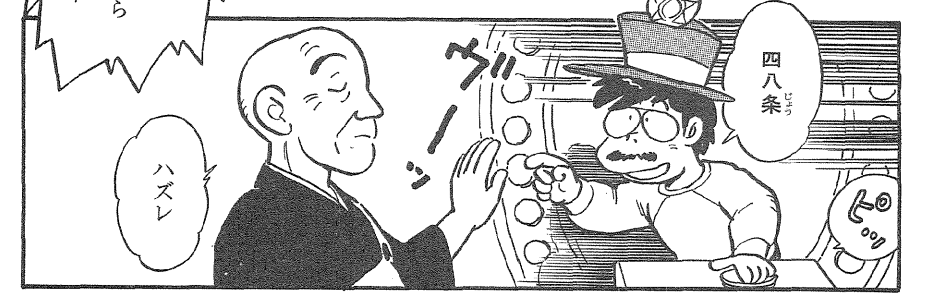
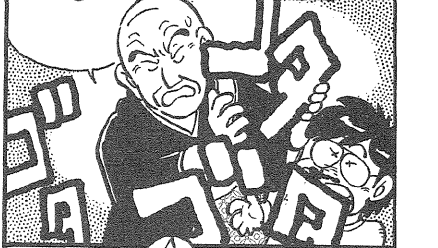
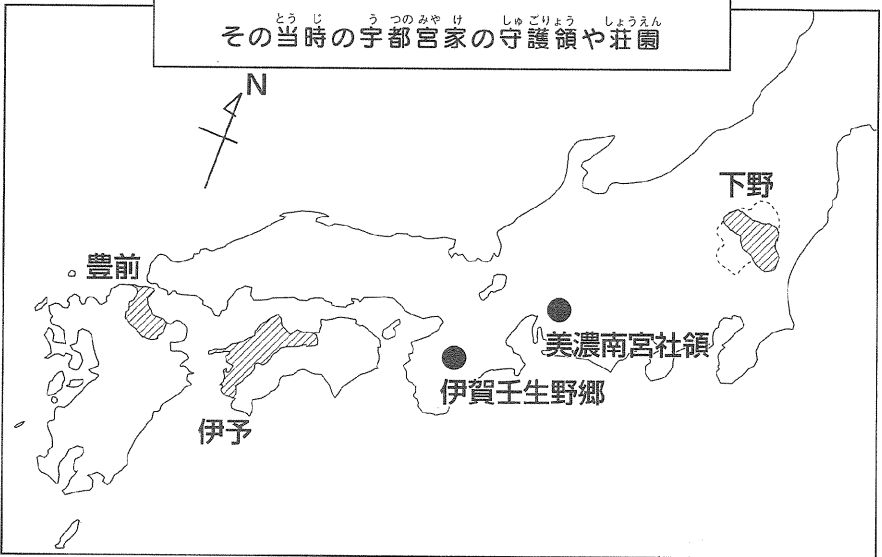


それも並の
寺ではないぞ
境内の広さは
今の馬場通り
三丁目・四丁目
二荒町・宮町
大通り二丁目
一番町一帯じゃ

ひえーっ
上野デパートから
中央小学校
東は住友生命ビル
あたりまで！

いま売ったら
いったいいくらに
なんだろう？

東勝寺寺域推定図





鎌倉幕府も末期をむかえんと
幕府の定めを無視して
内輪もめにあげられる御家人とか
あるいは土豪・下級武士くすれの
新興勢力「悪党」が各地に蜂起し

幕府にあつては執権北条氏の
執事である長崎円喜・高資
父子が権力をほしきままにして
あれほど堅固にみえた執権政治も
音をたてて崩れはじめた……

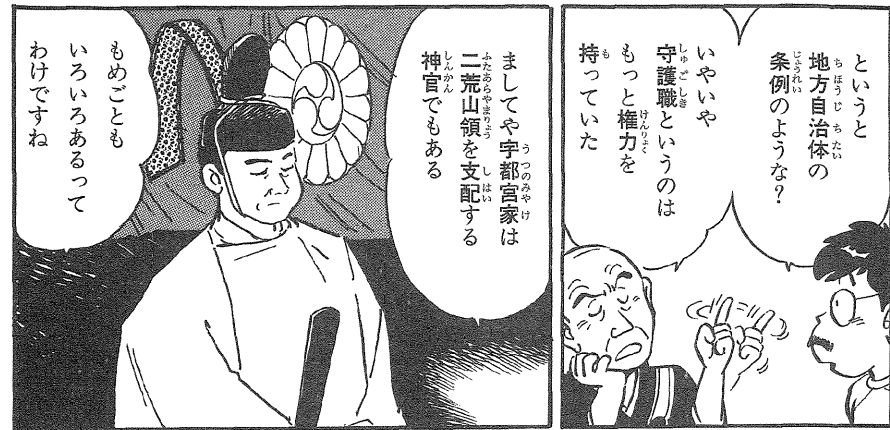


この混乱期に
いちやく脚光を
あびたのが
河内の武將
楠木正成じゃ

後醍醐天皇の
幕府打倒計画に
同調した新興勢力
「悪党」の大将ですね

悪党といつても
立派な武士
悪とはもともと
強いつか賢いという
意味で使われた
言葉なんじゃよ

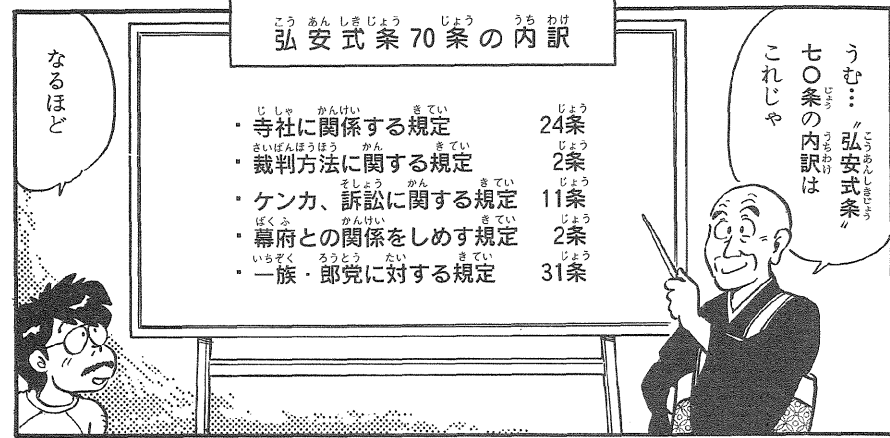
へえ！



というところ
地方自治体の
条例のような？
いやいや
守護職というのは
もつと権力を
持っていた

ましてや宇都宮家は
二荒山領を支配する
神官でもある

もめじこも
いろいろあるって
わけですね

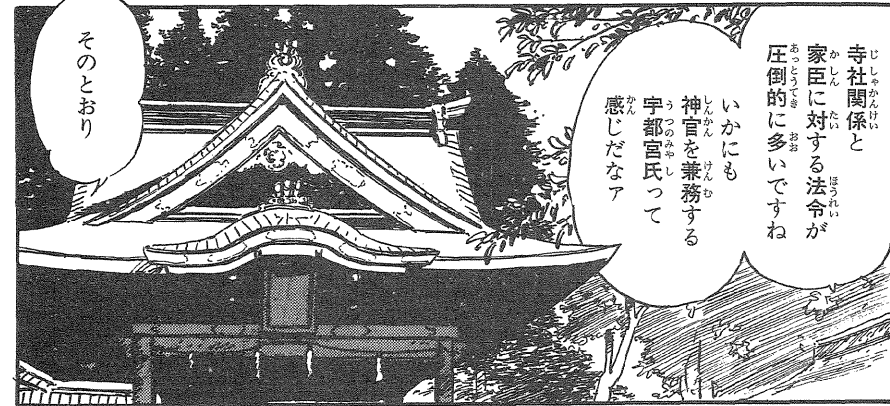


弘安式目録 70条の内訳

- ・ 寺社に関する規定 24条
- ・ 裁判方法に関する規定 2条
- ・ ケンカ、訴訟に関する規定 11条
- ・ 幕府との関係をしめす規定 2条
- ・ 一族・郎党に対する規定 31条

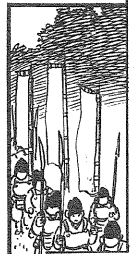
うむ…
弘安式目録
七〇条の内訳は
これじゃ

なるほど



寺社関係と
家臣に対する法令が
圧倒的に多いですね
いかにも
神官を兼務する
宇都宮氏って
感じだなア

そのとおり



ま...わが宇都宮家には
およばぬとしても
従業員一、五〇人前後の
中企業の社長といった
ところかな

その中企業の
オーナー楠木正成に
国の内閣である
鎌倉幕府の北条氏が
苦戦している――

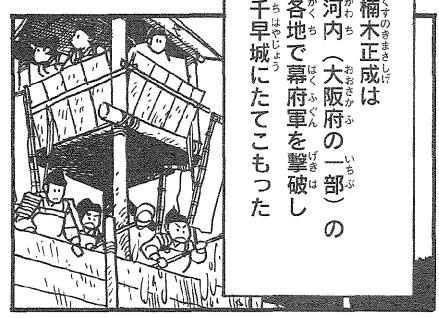
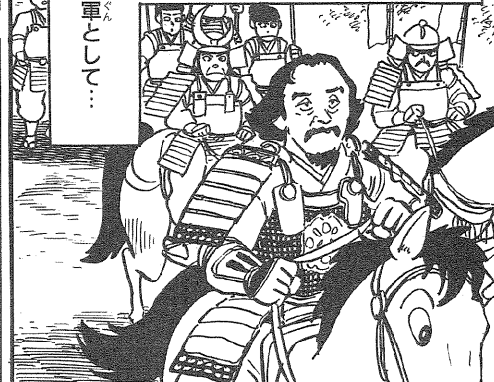
今の日本にも
政党の再編が
起こっているように
政治にはときどき
浄化が必要なのじゃ
ろうな……

なるほど
なるほど

千早城にももる楠木正成と
播磨(兵庫県南部)で拳兵した
赤松則村を討伐するため
下野足利荘の領主
足利尊氏は
名越高家とともに
一三三三(元弘三・正慶二)年
三月、鎌倉を出陣した

幕府の援軍として……

このとき
赤松則村との戦いで
名越高家が
摂津(大阪府の一部)で
討死すると
足利尊氏は
突如一転して
丹波(京都府の一部)で
倒幕の兵をあげた！



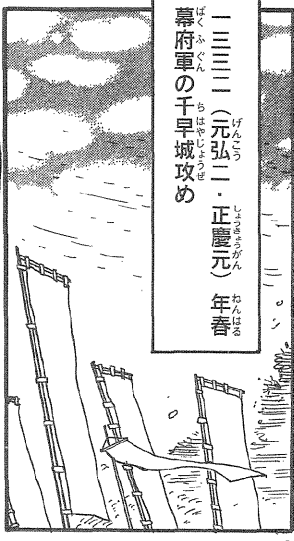
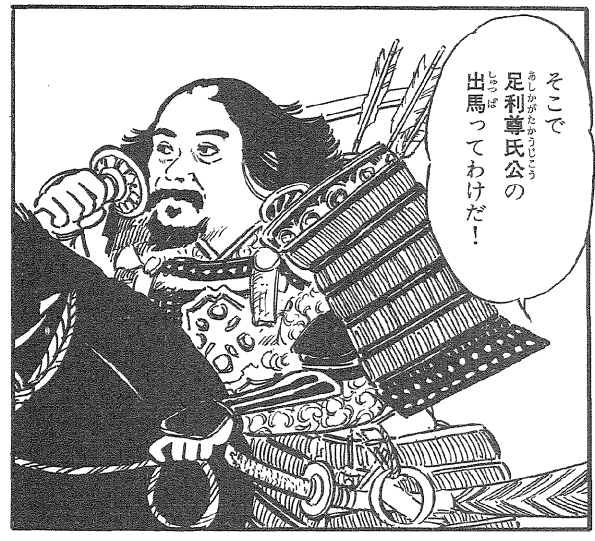
今こそ幕府を
倒す好機！

全国の武士たちに
立ち上がるよう
呼びかけよ！

おとこと

それでそのとき
宇都宮家の九代当主
公綱さんは
どうしてたの？

先陣の大將軍として
すでに前年から
摂津の四天王寺で
楠木正成と戦っていた





うむむ…
武家のお屋形になった
男だからな

ええ…だけど
ここでの主役は
足利尊氏さん
でしたからね

戦場で死ぬことを
へとも思っていない
精鋭部隊が相手では
うかつに戦えないと
言ってるんですね

うむ…宇都宮氏の
率いる紀清党が
いかに恐れられて
おったかがわかる
じやろう



のちの南北朝時代
足利兄弟は対立し
戦うことになる…

一三三八(延元三・暦応元)年
征夷大將軍に就任した尊氏は
足利家内部の訴訟や荘園管理を
執事の高師直にまかせ
幕府全般の訴訟・恩賞・法制
といった行政全般を
弟の直義にとりせるといっ
二元政治を行ったが



一三七〇(応安三)年
戦いに出て
紀州の粉河寺で
死んでいますね

その氏綱さんは
南朝方との
ゲリラ戦に
身をけずり



一〇代の氏綱は
上野國と越後國の
守護職に任せられる

わが宇都宮家は
この戦乱期にも
さらに活躍し



一三三二(元弘二・正慶元)年
「四天王寺の合戦」

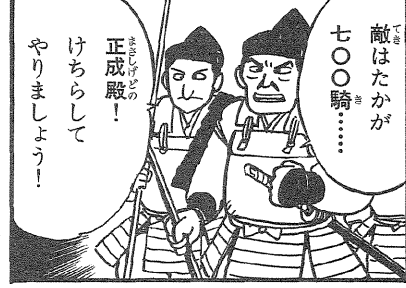
宇都宮公綱は旗本の
紀・清両党七〇騎を率いて
楠木正成勢と対峙した



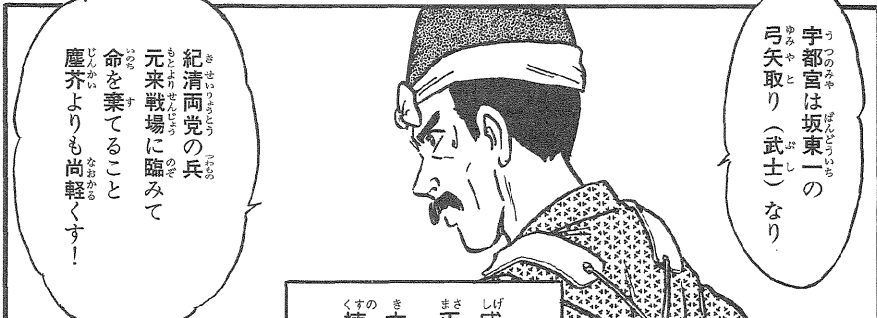
宇都宮公綱



勝ちいくさを
つづけている
からといって
敵をあなどる
ものではない



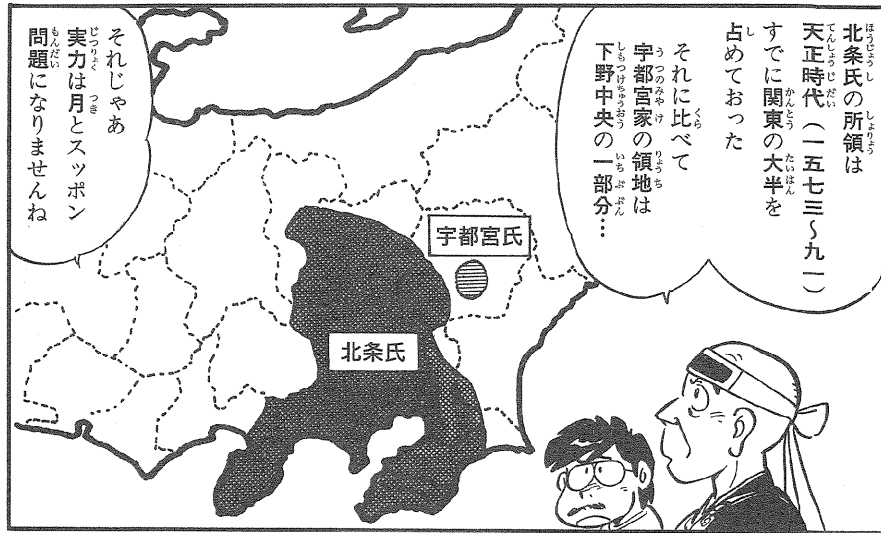
敵はたかが
七〇騎…
正成殿!
けちらして
やりましょう!



宇都宮は坂東一の
弓矢取り(武士)なり

紀清両党の兵
元來戦場に臨みて
命を棄てること
塵芥よりも尚軽くす!

楠木正成



北条氏の所領は
天正時代（一五七三〜九二）
すでに関東の大半を
占めておった

それに比べて
宇都宮家の領地は
下野中央の一部分…

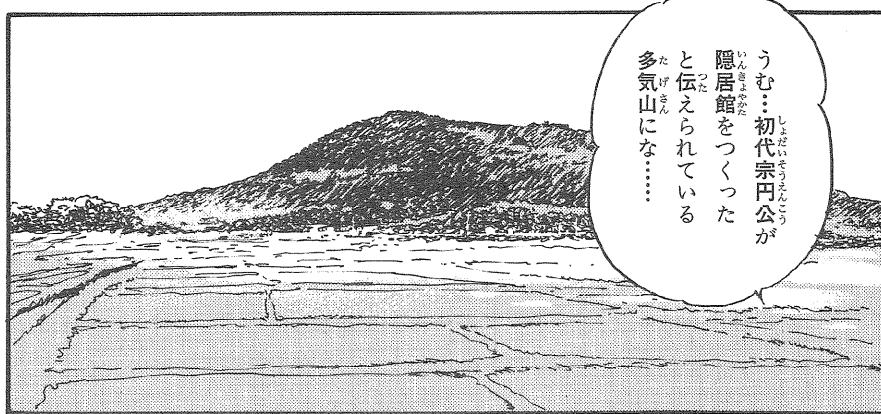
それじゃあ
實力は月とスッポン
問題になりませんね



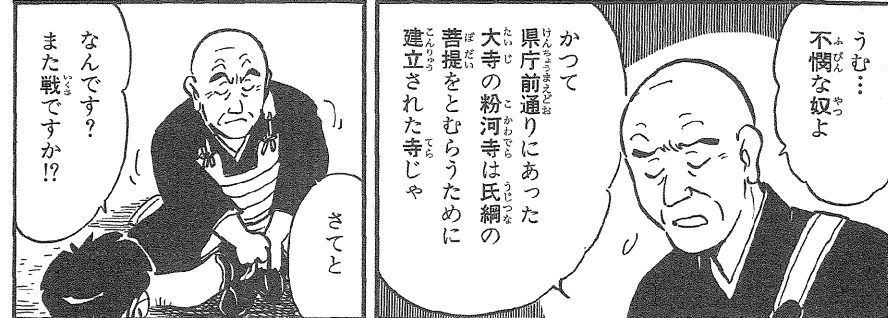
そうズケズケ
ものを言うな

なにせ
たび重なる猛攻で
二荒山神社も
神宮寺の慈心院も
東勝寺も興禅寺も
みな焼けてしまった

城下まで
攻められ
たんですか？
それで居城を
この山に…



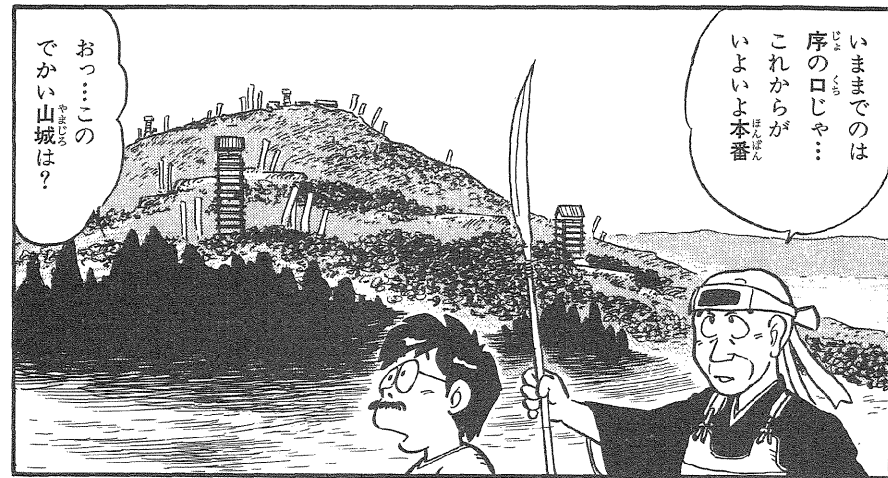
うむ：初代宗円公が
隠居館をつくった
と伝えられている
多気山にな…



うむ…
不憫な奴よ

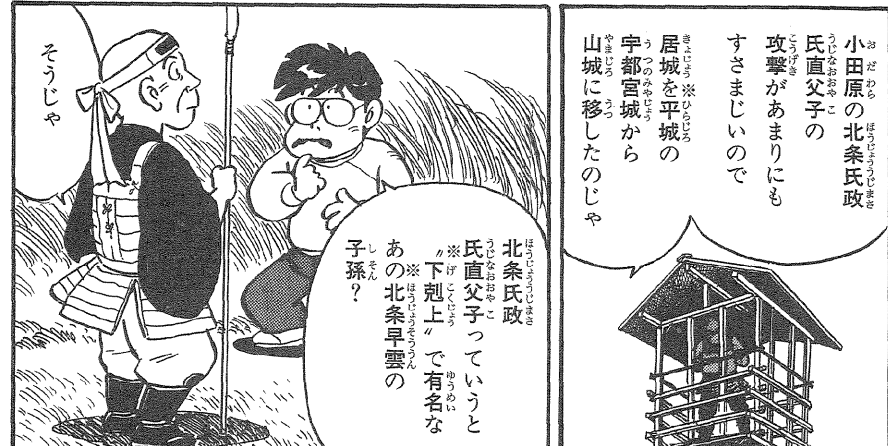
かつて
県庁前通りにあった
大寺の粉河寺は氏綱の
菩提をとむらうために
建立された寺じゃ

なんです？
また戦ですか!?



いままでののは
序の口じゃ…
これからが
いよいよ本番

おっ…この
でかい山城は？



小田原の北条氏政
氏直父子の
攻撃があまりにも
すさまじいので
居城を平城の
宇都宮城から
山城に移したのじゃ

北条氏政
氏直父子っていうと
下剋上で有名な
あの子孫？
あの子孫？

そうじゃ

※平城：平地に築かれた城のため、防御には不利である ※下剋上：身分の低い者がしあがって、身分の高い者をしのぐこと

※北条早雲…出身は不明ながら、一代で戦国大名北条氏の基礎を築いた人物



ふもとには
二重の空堀と
土塁がぐるりと
巡らせてある



※
要所要所に
横矢を兼ねた
物見台を置き



同感です

多気城は
おそろく関東…
いや日本最大級の
山城じゃな



ぼくの時代には
杉や檜の生い茂った
ただの山ですよ

四〇〇年前は
じつに壮大な城
だったんだなア



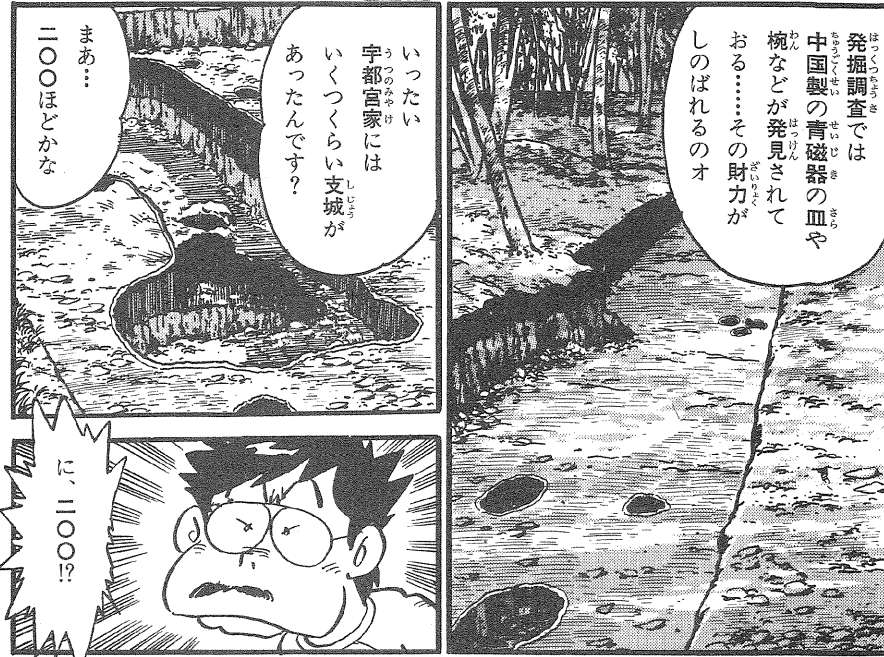
〈下野国誌〉には
常陸の佐竹家の重臣
鹿島治時や行方氏が
派遣されたと
記されていますね

多気城(宇都宮市田下町)



持室院と
多気山全体が
広大な城郭に
なっておるのだ

見れば見るほど
難攻不落な城郭
ですね……！



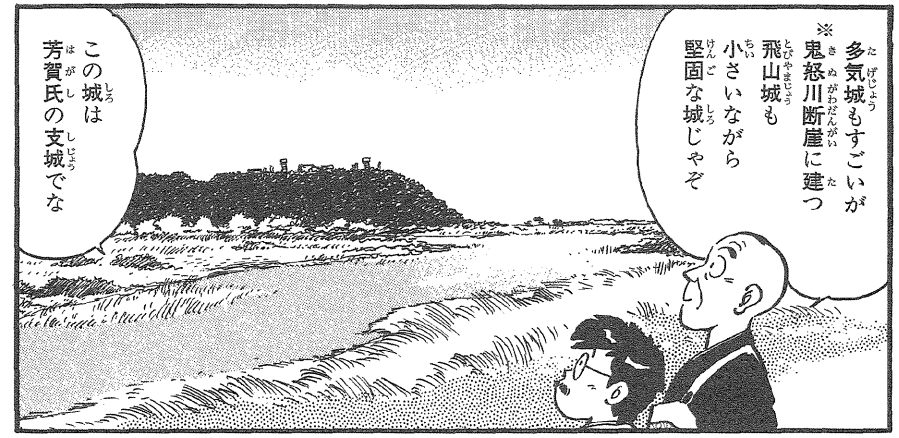
こうした支城のネットワークの中心にあるのが平和な時には宇都宮城戦いの時には多気城なのじゃ

この城主たちが付近の城砦の小領主を配下において治めておった

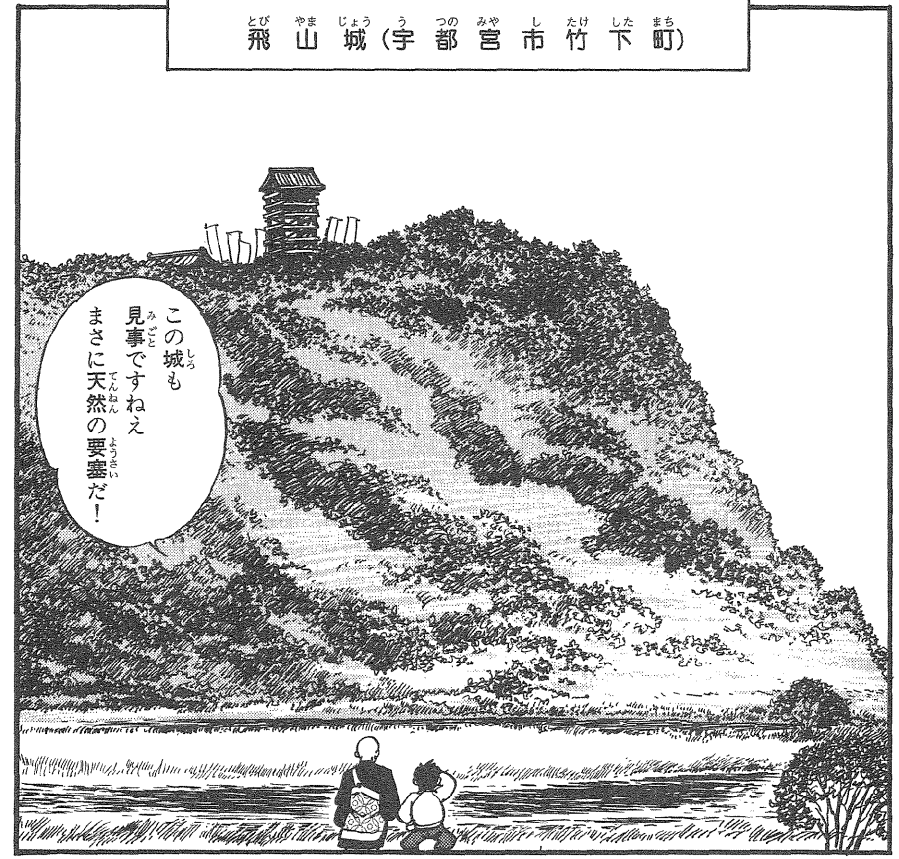
宇都宮氏の支城ネットワーク図

```

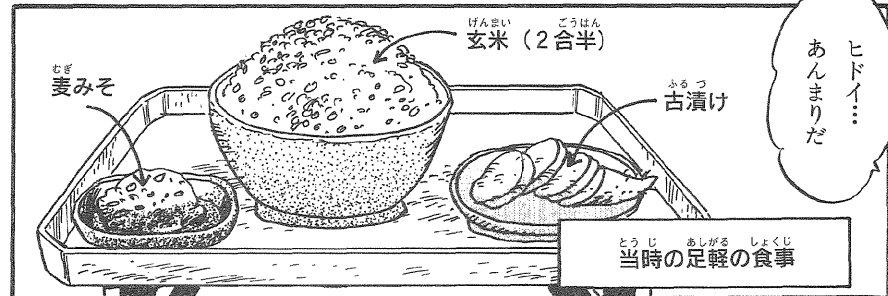
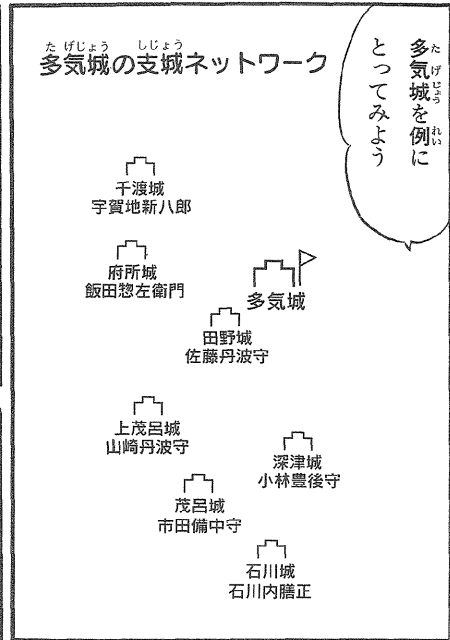
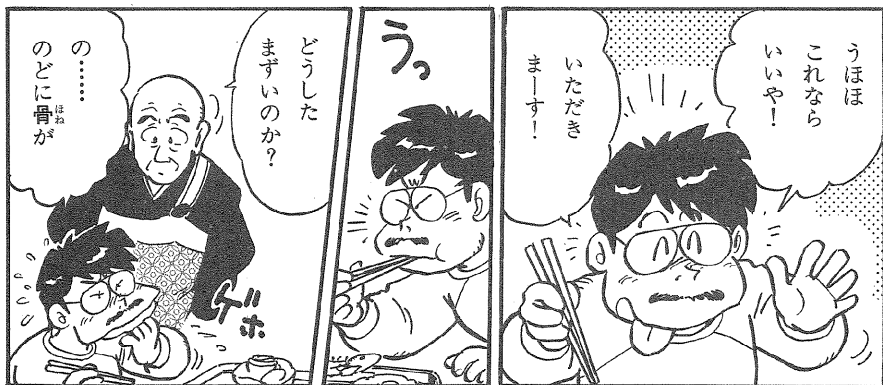
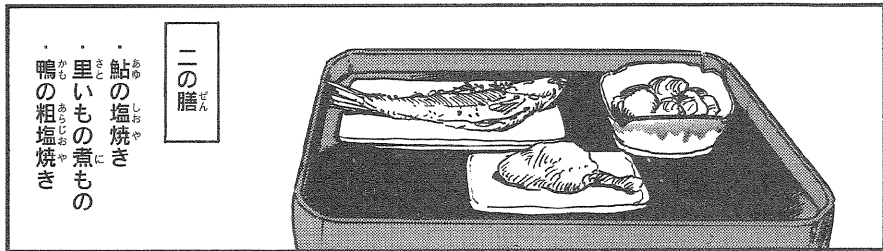
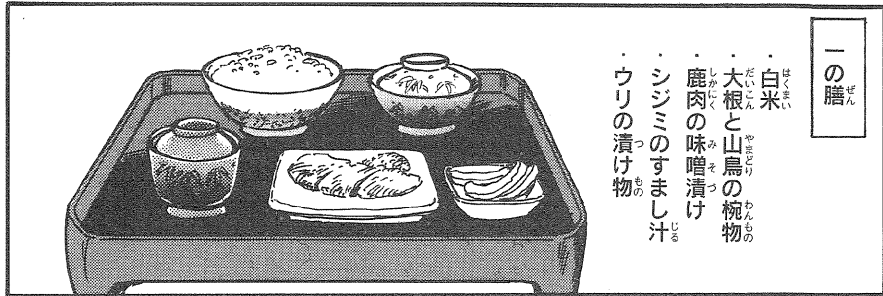
    graph TD
      A[坂原要宮山城 君島信濃守] --- B[川崎城 堤台伯耆守]
      A --- C[武茂城 武茂左衛門尉]
      B --- D[大宮城 大宮宗利守]
      B --- E[勝山城 芳賀藤河守]
      D --- F[宇都宮城]
      D --- G[高根沢城 高根沢新右衛門]
      E --- F
      E --- H[高根沢新右衛門]
      F --- I[横田出羽守]
      F --- J[飛山城 芳賀伊賀守]
      I --- K[西方城 西方太郎左衛門]
      I --- L[上三川城 今泉但馬守]
      J --- M[多功城 多功石見守]
      J --- N[鷲ヶ丘城 芳賀左兵衛尉]
      J --- O[西明寺城 益子宮内大輔]
      M --- P[藤野寺城 藤野寺伊賀守]
      M --- Q[笠間城 笠間左衛門尉]
      N --- R[祖母井城 祖母井信濃守]
      N --- S[祖母井信濃守]
  
```

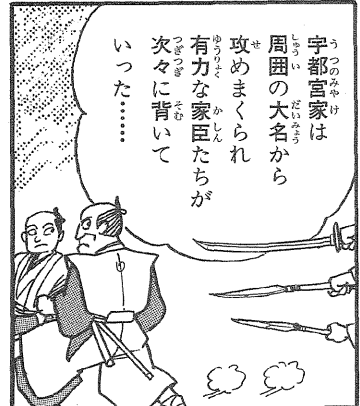
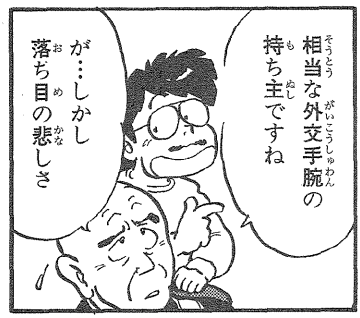
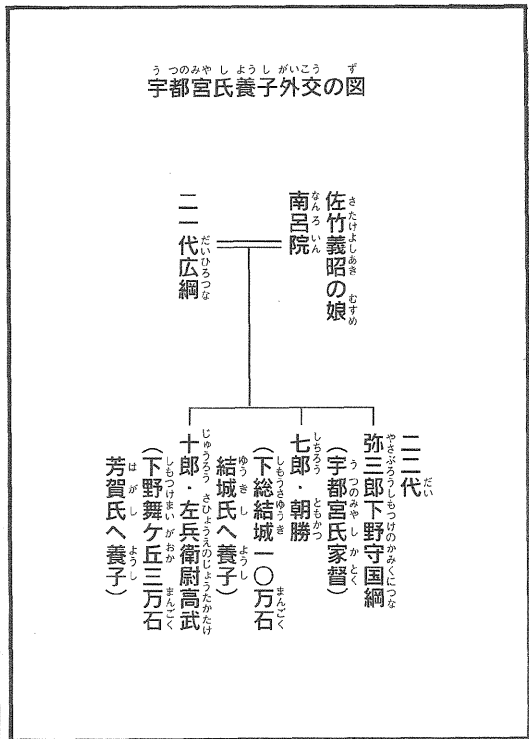
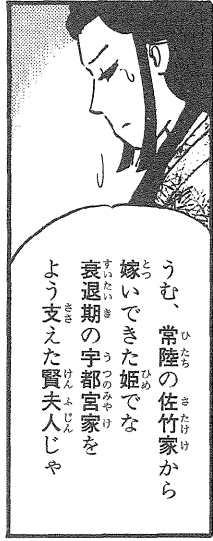
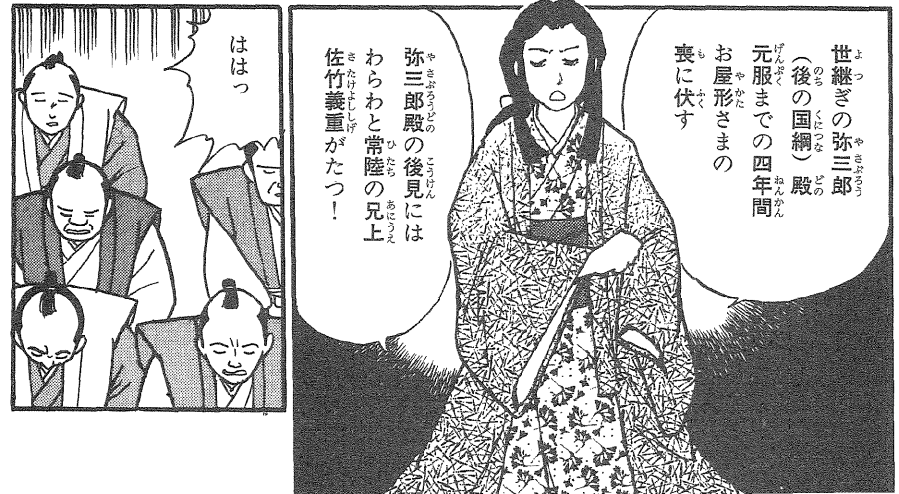
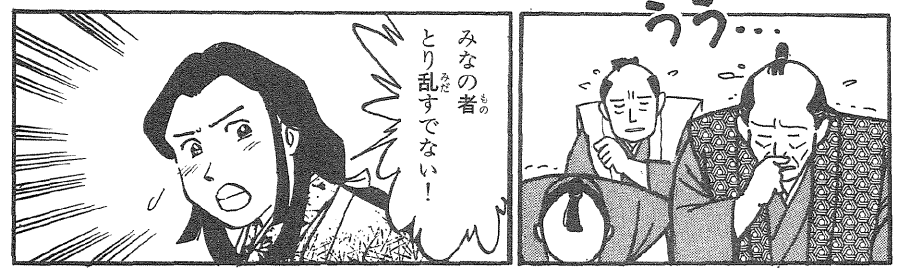
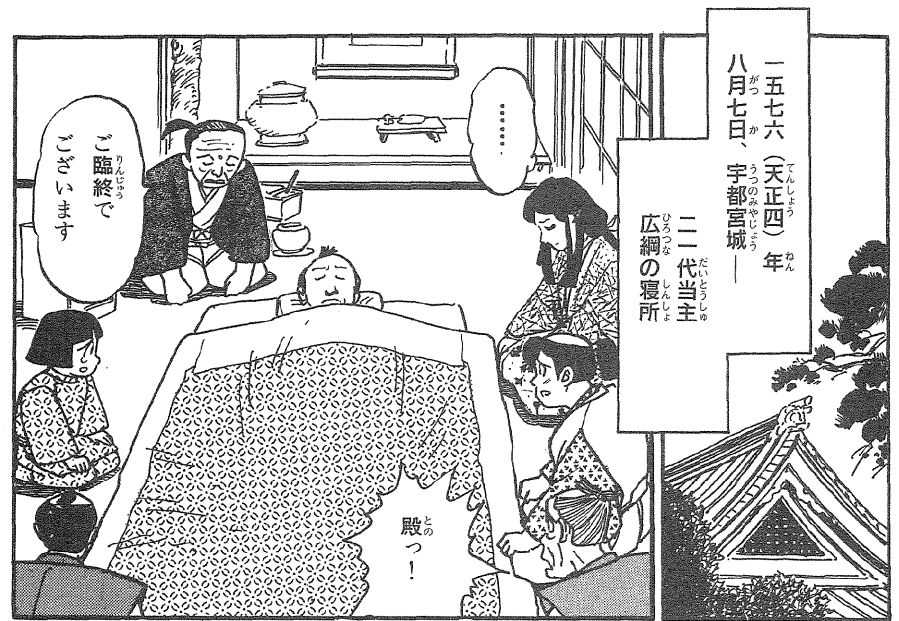


とびやまじょううつのみやししたまち 飛山城(宇都宮市竹下町)



※鬼怒川…この時代の鬼怒川は、あたりに森も多く、ダムもなかったから現在より水量が多かった







命令に従わず
いつまでも上洛しない
北条氏政・氏直に激怒した
秀吉は二万の大軍を
動員して小田原城を
取り囲んだ

信長様亡きあと
天下統一まであと一歩
残る敵は
北条だけじゃ
あ親子め！
どこまでわしに
さからいおるかッ

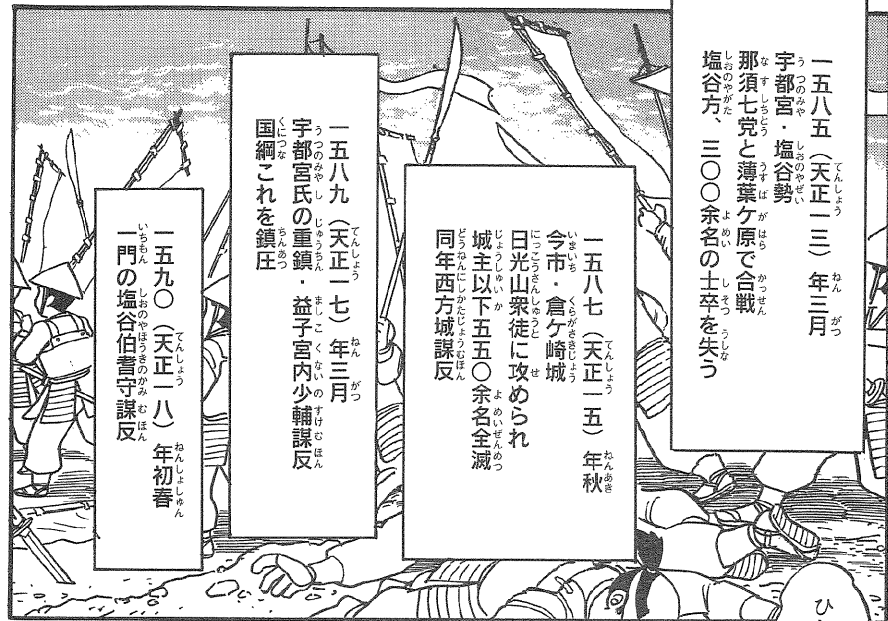
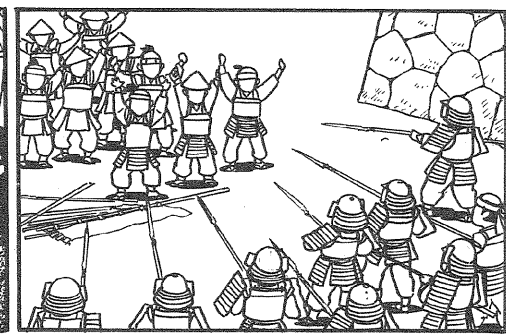


攻防三カ月——
小田原城は降伏した

対する北条方の
将兵は約六万
宇都宮・佐竹・織城氏を
始めとする三万余の
関東武士もこれに応じて
挙兵した



北条氏政
氏照兄弟切腹…
負けた小田原軍に
ついた下野武士は
身分や領地を
取り上げられた



一五八五(天正一三)年三月
宇都宮・塩谷勢
那須七党と薄葉ヶ原で合戦
塩谷方、三〇〇余名の士卒を失う

一五八七(天正一五)年秋
今市・倉ヶ崎城
日光山衆徒に攻められ
城主以下五五〇余名全滅
同年西方城謀反

一五八九(天正一七)年三月
宇都宮氏の重鎮・益子宮内少輔謀反
国綱これを鎮圧

一五九〇(天正一八)年初春
一門の塩谷伯耆守謀反



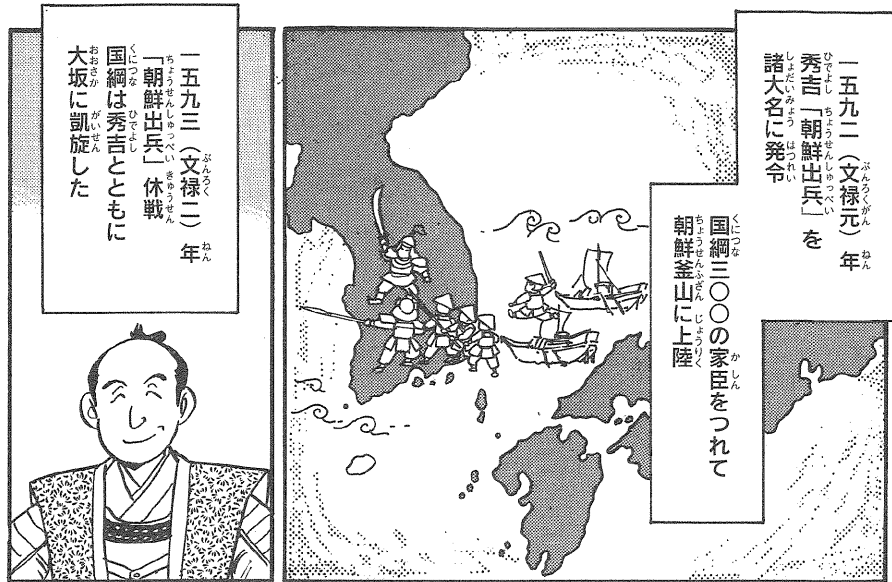
ひどい…
もはや断末魔
じゃないの

そうじゃな
あと二、三年も
この状態が続けば
宇都宮家は
滅んでおつたらう
じゃがここに
思わぬ救世主が
現れたのじゃ



一五九〇(天正一八)年四月
秀吉の小田原攻めによつて
宇都宮氏は救われるという
結果となった——

わかった
豊臣秀吉だ！
ヒンポーン！
当たり前！



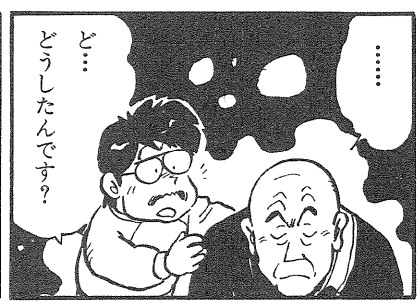
一五九三(文禄二)年
「朝鮮出兵」休戦
国綱は秀吉とともに
大坂に凱旋した

一五九二(文禄元)年
秀吉「朝鮮出兵」を
諸大名に発令

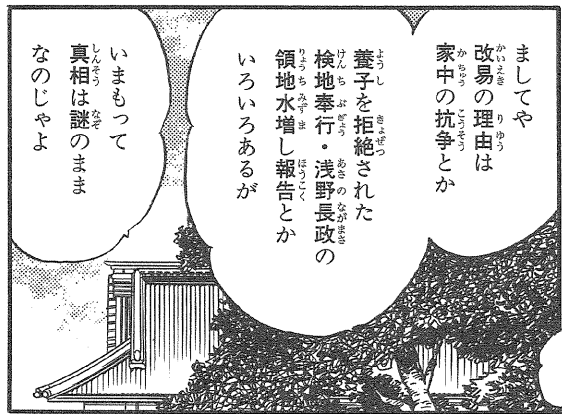
国綱三〇〇〇石家臣をつれて
朝鮮釜山に上陸



この四年後の
一〇月二三日
わが宇都宮家は
豊田家によって
領地を没収され！
滅亡したのじゃ！



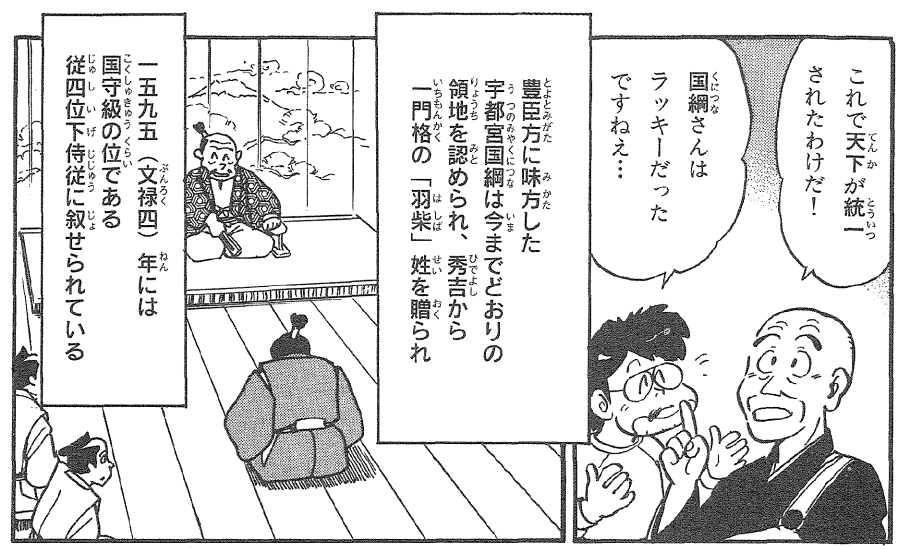
ど…
どうしたんです？



いまもって
真相は謎のまま
なのじゃよ



ましてや
改易の理由は
家中の抗争とか
養子を拒絶された
検地奉行・浅野長政の
領地水増し報告とか
いろいろあるが



これで天下が統一
されたわけだ！
国綱さんは
ラッキーだった
ですねえ…

豊臣方に味方した
宇都宮国綱は今までどおりの
領地を認められ、秀吉から
一門格の「羽柴」姓を贈られ

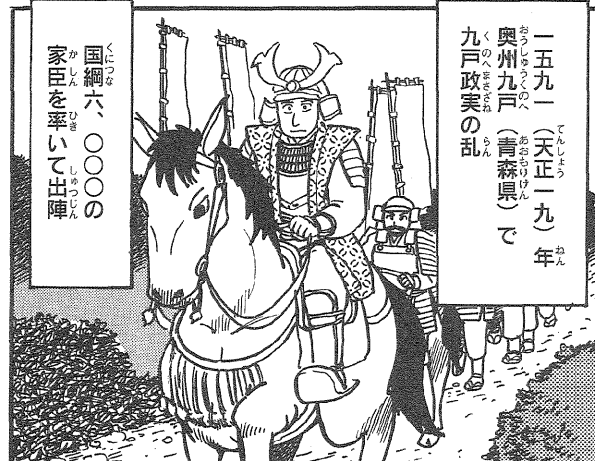
一五九五(文禄四)年には
国守級の位である
従四位下侍従に叙せられている



秀吉も
キツイよね



豊臣家の
大名たちから
「羽柴宇都宮侍従」と
尊称されたのじゃ
オホッ
それにくらべて
那須氏はちよつと
かわいそうだな



一五九一(天正一九)年
奥州九戸(青森県)で
九戸政実の乱
国綱六、〇〇〇石
家臣を率いて出陣



その後の
国綱さんは
まさに東奔西走の
活躍ですねえ
うむ

